

もくじ

もくじ	1
はじめに	5
やりたいことを探そう！	10

1章 本体の機能 15

1 各部の名前	16
① 前面図	16
② 背面図	17
③ 裏面図	18
2 システムインジケータ	21
3 キーボード	22
① キーボード図	22
② キーシフトインジケータの切り替え	24
③ キーを使った便利な機能	25
4 タッチパッドとマウス	29
① タッチパッドを設定するには	29
② タッピング機能	30
③ その他の設定	32
④ タッチパッドを無効／有効にするには	33
⑤ マウスの設定	33
5 ディスプレイ	35
① ディスプレイの設定	35
② 時間帯で壁紙を変える	36
6 ハードディスクドライブ	43
7 サウンド機能	44
① スピーカの音量を調整する	44
② 音楽／音声の録音レベルを調整する	45
8 ドライブ	46
① 使用できるメディアと対応するアプリケーション	46
② 使用できる CD	47
③ 使用できる DVD	48
9 セキュリティロック	50

2章 音楽と映像

51

- 1 音楽CDを聴く 52
 - ① Windowsを起動して音楽CDを聴く 52
- 2 音楽ファイルを聴く 56
 - ① BeatJamで音楽ファイルを再生する 56
 - ② Windows Media Playerでファイルを再生する 59
- 3 オリジナル音楽CDを作る 63
 - ① Drag'n Drop CD + DVDを使うために 63
 - ② Drag'n Drop CD + DVDを使う 64
 - ③ Drag'n Drop CD + DVDを終了する 67
- 4 DVD-Videoを観る 68
 - ① InterVideo WinDVDを起動する 69
 - ② InterVideo WinDVDを使う 70

3章 通信機能

75

- 1 LANへ接続する 76
 - ① ケーブルを使ったLAN接続 76
 - ② ネットワーク設定に便利な機能 78
- 2 内蔵モデムについて 83
 - ① 海外でインターネットに接続する 83

4章 周辺機器の接続

87

- 1 周辺機器について 88
 - ① 周辺機器を使う前に 89
- 2 フロッピーディスクドライブを接続する 90
 - ① フロッピーディスクドライブ 90
 - ② フロッピーディスク 91
 - ③ フロッピーディスクを使う前に 92

3	PCカードを接続する	96
①	PCカードを使う前に	96
②	PCカードを使う	97
4	USB対応機器を接続する	99
5	テレビを接続する	101
6	外部ディスプレイを接続する	106
7	その他の機器を接続する	107
①	マイクロホン	107
②	ヘッドホン	108
8	メモリを増設する	110

5章 バッテリ駆動

115

1	バッテリーについて	116
①	バッテリー充電量を確認する	117
②	バッテリーを充電する	120
③	バッテリーパックを交換する	123
2	省電力の設定をする	125
①	省電力ユーティリティ	125
3	パソコンの使用を中断する／電源を切る	131
①	スタンバイ	132
②	休止状態	133
③	簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	135

6章 アプリケーションについて

137

1	アプリケーションを追加（インストール）する	138
2	アプリケーションを削除（アンインストール）する	139

7章 システム環境の変更 141

- 1 システム環境の変更とは 142
- 2 東芝 HW セットアップを使う 143
- 3 パスワードセキュリティ 149
 - ① ユーザパスワード 149
 - ② ユーザパスワードの入力 151
 - ③ スーパーバイザパスワード 151
- 4 BIOS セットアップを使う 153
 - ① 起動と終了 153
 - ② BIOS セットアップの画面 154
 - ③ 設定項目 155

付録 169

- 1 本製品の仕様 170
- 2 技術基準適合について 179
- 総合さくいん 193

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っていると便利な内容を示します。
 役立つ 操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「 」 他のマニュアルへの参照の場合…『 』 サイバーサポートへの参照の場合…〈 〉 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

- * 1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
- * 2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
- * 3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム (OS) を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME 2003 / ナチュラルインプット 2003 を示します。

サイバーサポート
CyberSupport for TOSHIBA を示します。

ドライブ マルチドライブを示します。

 参照 ▶ 詳細について「1 章 8 ドライブ」

記載について

- ・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱の DVD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Windows Media、Office ロゴ、Outlook は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Intel、インテル、Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport、BeatJam は、株式会社ジャストシステムの商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport、BeatJam は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport、BeatJam にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ CDDDB は Gracenote の登録商標です。
- ・ Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
- ・ LaLaVoice、ConfigFree は (株) 東芝の登録商標です。
- ・ The 翻訳、The 翻訳インターネットは (株) 東芝ソリューション株式会社の商標です。

- ・ 駅前探険倶楽部は株式会社駅前探険倶楽部の登録商標です。
- ・ ekitanExpress Online の商標は出願中です。
- ・ Adobe、Adobe ロゴは Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の商標です。
- ・ Drag'n Drop はイーजीシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ InterVideo、WinDVD は InterVideo ,Inc. の登録商標または商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdate は Symantec Corporation の登録商標です。
- ・ Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
- ・ ©2003 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- ・ Liquid View は、Portrait Display の登録商標です。
- ・ infoPepper は東芝情報システム株式会社の登録商標です。
- ・ アメリカ・オンラインおよび AOL は AOL の登録商標です。
- ・ BIGLOBE は日本電気株式会社の登録商標です。
- ・ DION は KDDI 株式会社の登録商標です。
- ・ OCN は NTT コミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ・ @nifty は、ニフティ株式会社の商標です。
- ・ ODN は日本テレコム株式会社の商標です。
- ・ かるがるネット、かるがるネットのロゴは株式会社アイコムジャパンの商標または登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・ ACアダプタを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5 ~ 35℃ (高所の場合 25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製 (データ形式の変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

参照▶ 詳細について『まずはこれから ユーザ登録をする』

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

やいたいことを探そう！



探しかた

- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ XXXXX
↳ アプリケーション名 ↳ 参照ページまたは参照マニュアル名



通信を楽しむ

- ・ プロバイダと契約したい
「簡単インターネット」 ⇒ 「基本をマスター 2章」
- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ 「基本をマスター 2章」
- ・ ホームページを英語／日本語に翻訳したい
「The翻訳インターネット」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ 海外でインターネットに接続したい
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」 ⇒ P.83
- ・ ネットワークの診断や切り替えをしたい
「ConfigFree」 ⇒ P.78



メールを使う

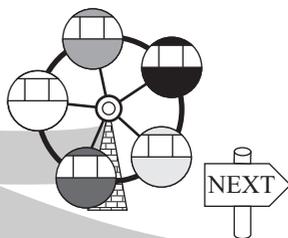
- ・ メールとスケジュールをまとめて管理したい
「Microsoft Office Outlook」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ メールをしたい
「Microsoft Office Outlook」 「Outlook Express」
⇒ 「基本をマスター 3章」





音楽を楽しむ

- ・音楽CDやファイル、ムービーを再生したい
「Windows Media Player」⇒P.52
- ・オリジナル音楽CDをつくりたい
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒P.63
- ・音楽CDやファイルを再生、管理したい
「BeatJam」⇒P.52



音声

- ・パソコンを音声で操作したい
パソコンに文章を読み上げさせたい
「LaLaVoice」⇒《サイバーサポート》



画像/映像を楽しむ

- ・DVDを楽しみたい
「InterVideo WinDVD」⇒P.68



文書/表を作る



- ・案内状や報告書を作りたい
「Microsoft Office Word」⇒《サイバーサポート》
- ・表やグラフを作りたい
「Microsoft Office Excel」⇒《サイバーサポート》



便利なソフト

- ・PDFファイルを見たい
「Adobe Reader」⇒《サイバーサポート》
- ・電車の経路や時刻表、運賃を調べたい
「ekitanExpress Online」⇒《サイバーサポート》
- ・年賀状や暑中見舞いを作りたい
「筆ぐるめ」⇒《サイバーサポート》





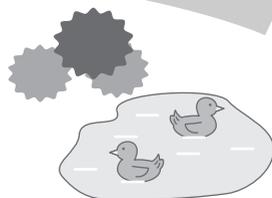
パソコンを守る

- ・ ウイルスのチェックや駆除をしたい
「Norton Internet Security」⇒『困ったときは 2章』
- ・ CD-R、CD-RWにバックアップを取りたい
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒『困ったときは 2章』



パソコンの設定

- ・ パソコンの状態をチェックしたい
パソコンの基本情報を知りたい
「東芝PC 診断ツール」⇒『困ったときは1章』
- ・ ハードウェアの設定を変えたい
「東芝 HW セットアップ」⇒P.143
- ・ キー操作でアプリケーションを起動したい
「Fn-esse」⇒《サイバーサポート》
- ・ バッテリー駆動のときの省電力設定をしたい
「東芝省電力ユーティリティ」⇒P.125
- ・ アイコンやメニューを大きくしたい
「Liquid View」⇒《サイバーサポート》
- ・ 壁紙を設定したい
「くるくる壁紙チェンジャー」⇒P.36



1 章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

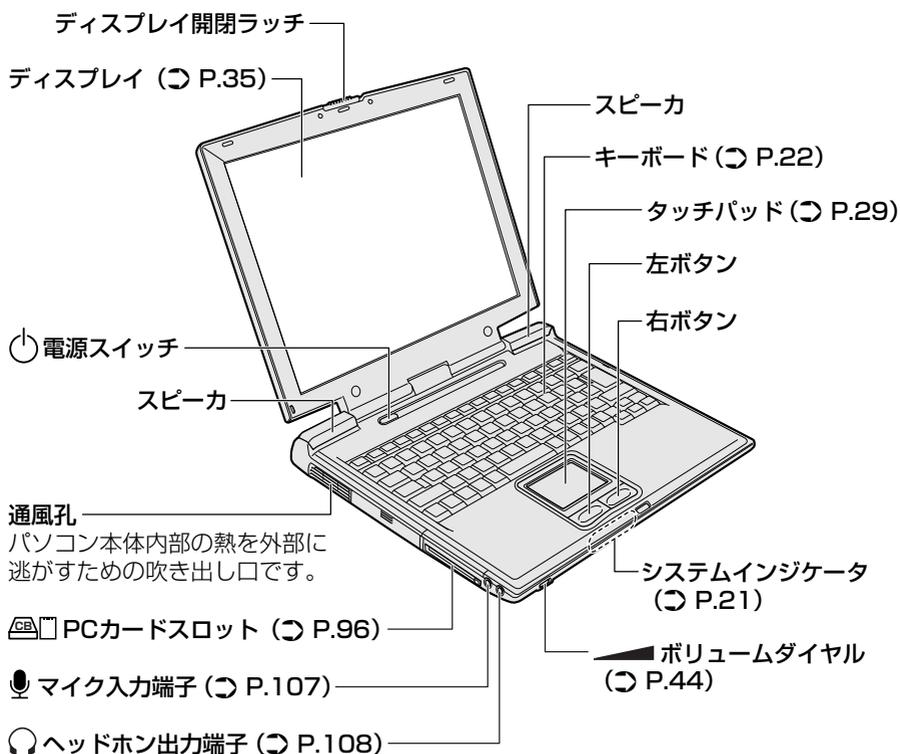
また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。各部の手入れについても確認してください。

1	各部の名前	16
2	システムインジケータ	21
3	キーボード	22
4	タッチパッドとマウス	29
5	ディスプレイ	35
6	ハードディスクドライブ	43
7	サウンド機能	44
8	ドライブ	46
9	セキュリティロック	50

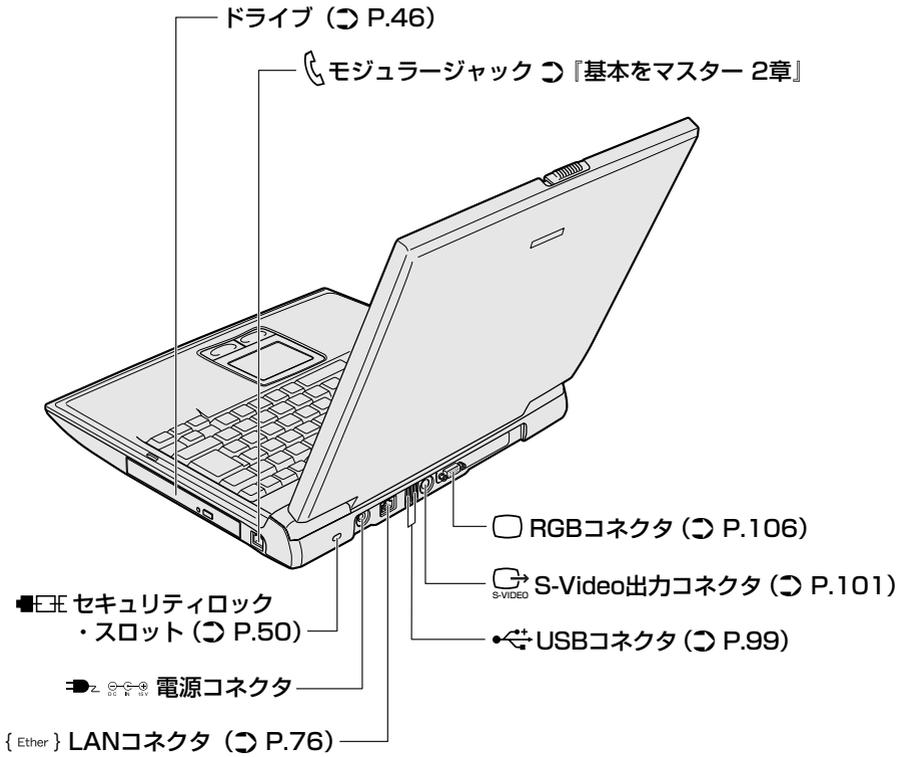
1 各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、各参照ページを確認してください。

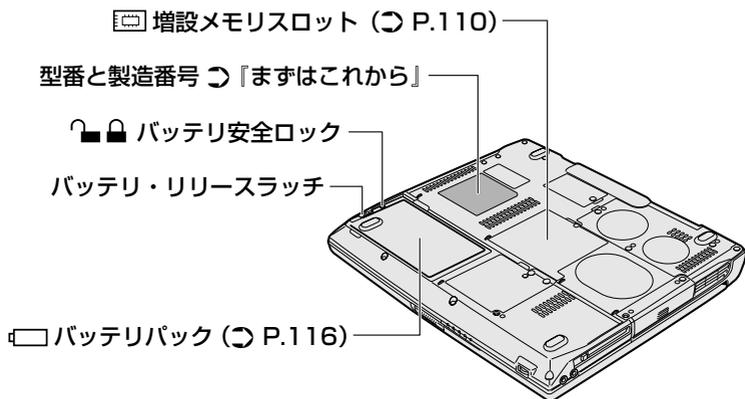
1 前面図



2 背面図



3 裏面図



【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、アメリカ合衆国、カナダ、日本の規格にのみ準拠しています。

その他の地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

アメリカ合衆国 : 125V

カナダ : 125V

日本 : 100V

必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

※取得規格は、アメリカ合衆国：UL規格、カナダ：CSA、日本：電気用品安全法です。

【ACアダプタの仕様】

本製品に同梱されているACアダプタは海外でも使用できます。

入力：AC100V～240V、90～264VA、50/60Hz

出力：DC15V 4A

警告

- 必ず、本製品付属のACアダプタを使用してください。本製品付属以外のACアダプタを使用すると電圧や(+)(-)の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体にACアダプタを接続する場合、必ず『まずはこれから』に記載してある順番を守って接続してください。順番を守らないと、ACアダプタのDC出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、ACアダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

注意

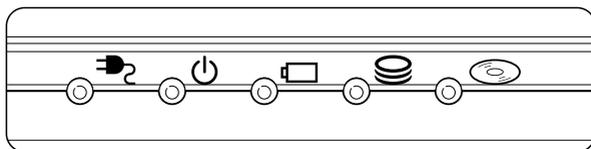
- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

パソコン本体／電源コードの取り扱いと手入れ

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5～35℃、湿度 20～80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたって AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリを拭き取ってください。

2 システムインジケータ

システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



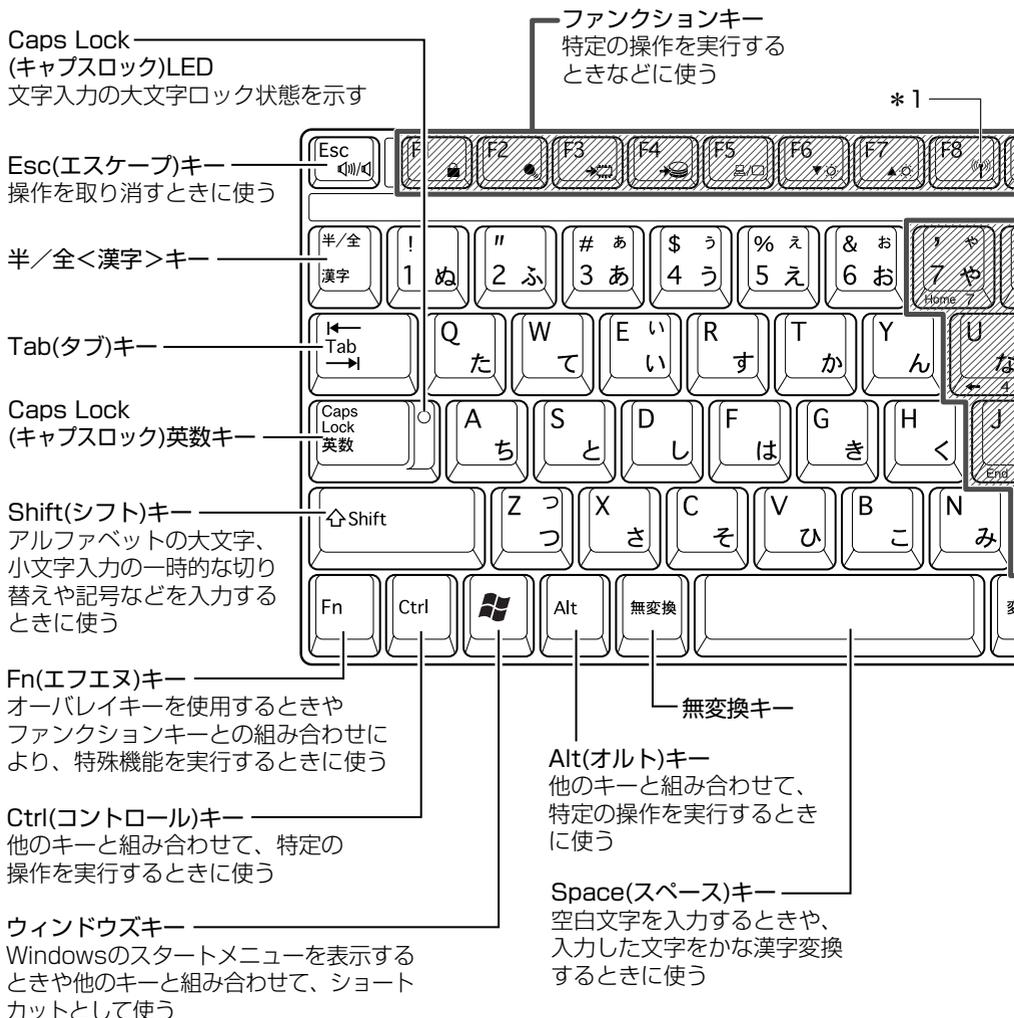
【システムインジケータ】

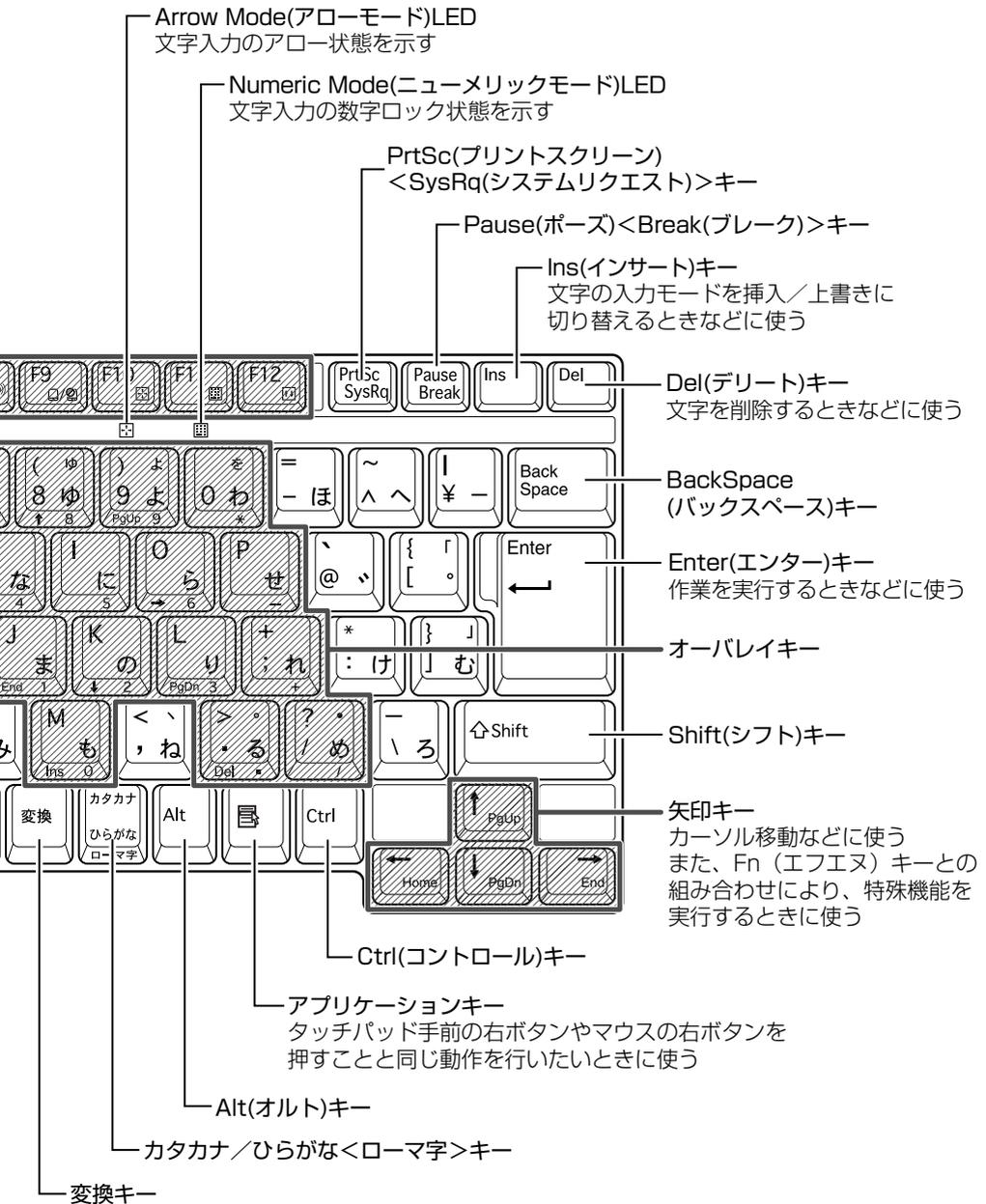
	DC IN LED	電源コードの接続  参照 『まずはこれから』
	Power LED	電源の状態  参照 『まずはこれから』
	Battery LED	バッテリーの状態  参照 P.118
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている  参照 P.43
	CD-ROM LED	ドライブにアクセスしている  参照 P.46

3 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1) キーボード図





* 1 (Fn)+(F8)の機能はサポートしていません。

2 キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。

各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LED が点灯します。その場合、他の2つは解除して消灯してください。

【キーシフトインジケータ】

LED	切り替えキー	文字入力の状態
Caps Lock LED	(Shift) + (Caps Lock 英数)	大文字ロック状態 文字キーで英字の大文字が入力 できます。
Arrow Mode LED	(Fn) + (F10)	アロー状態 オーバーレイキーで、キーの前面 左側に印刷されたカーソル制御 ができます。
Numeric Mode LED	(Fn) + (F11)	数字ロック状態 オーバーレイキーで、キーの前面 右側に印刷された数字などの文 字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう1度押します。

3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせると、いろいろな操作が実行できます。

【Fnキーを使った特殊機能キー】

キー	内容
(Fn)+(Esc) 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度(Fn)+(Esc)キーを押します。
(Fn)+(F1) 〈インスタント セキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 解除するには、次の操作を行ってください。 ① (Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作する ユーザ選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。 ② Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、(Enter)キーを押す パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ]の[スクリーンセーバー]タブで、[パスワードによる保護]または[再開時によろ画面に戻る]をチェック）しておく、セキュリティを強化できます。
(Fn)+(F2) 〈省電力モードの設定〉	(Fn)+(F2)キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn)キーを押したまま、(F2)キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。
(Fn)+(F3) 〈スタンバイ機能の実行〉	(Fn)+(F3)キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックすると、スタンバイ機能が実行されます*1。
(Fn)+(F4) 〈休止状態の実行〉	(Fn)+(F4)キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックすると、休止状態が実行されます*1。

キー	内容
(Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 参照 ▶ 詳細について「4章 5 テレビを接続する」
(Fn)+(F6) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F7) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F8) 〈無線通信機能を切り替える〉	ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、(Fn)キーを押したまま、(F8)キーを押すたびに使用する無線通信機能を切り替えます。 *本機能はサポートしておりません。
(Fn)+(F9) 〈タッチパッドオン/オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度、(Fn)+(F9)キーを押します。 参照 ▶ 「本章 4-④ タッチパッドを無効/有効にするには」
(Fn)+(F10) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます(アロー状態)。アロー状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F10)キーを押します。
(Fn)+(F11) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます(数字ロック状態)。数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F11)キーを押します。 アプリケーション(Microsoft Excelなど)によっては異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで、(↑)(↓)(←)(→)キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F12)キーを押します。

キー	内容
(Fn) + (↑) 〈PgUp (ページアップ)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (↑) キーを押すと、前のページに移動できます。
(Fn) + (↓) 〈PgDn (ページダウン)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (↓) キーを押すと、次のページに移動できます。
(Fn) + (←) 〈Home (ホーム)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (←) キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
(Fn) + (→) 〈End (エンド)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (→) キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

* 1 表示される画面で [今後、このメッセージを表示しない] をチェックすると、次回以降メッセージ画面は表示されません。

【キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
 + (R)	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
 + (M)	すべての画面を最小化する
(Shift) +  + (M)	 + (M) キーで最小化したすべての画面を元に戻す
 + (F1)	『ヘルプとサポート』を起動する
 + (E)	[マイコンピュータ] 画面を表示する
 + (F)	ファイルまたはフォルダを検索する
(Ctrl) +  + (F)	他のコンピュータを検索する
 + (Tab)	タスクバーのボタンを順番に切り替える
 + (Break)	[システムのプロパティ] 画面を表示する

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	(Ctrl) + (Alt) + (Del)	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	(PrtSc)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Alt) + (PrtSc)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナーで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに点検を依頼してください。

4 タッチパッドとマウス

タッチパッドとマウス（別売り）を使いやすく設定できます。

1 タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、「マウスのプロパティ」で行います。

1 「マウスのプロパティ」の起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。



3 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする

各機能の設定については、本節の以降の説明を参照してください。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

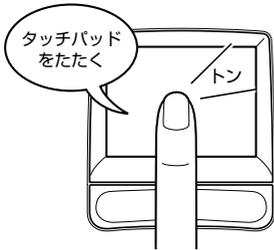
2 タッピング機能

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

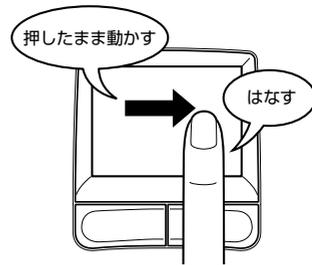
【クリック/ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。



参照 → 関連情報は

『基本をマスター 1章 1 タッチパッド/マウスとCD/DVD』

2 タッピング機能を設定する

タッピングのいろいろな設定は、[拡張] タブでできます。[マウスのプロパティ] 画面で、次のように操作してください。

- 1 [拡張] タブで [拡張機能の設定] ボタンをクリックする
[拡張機能の設定] 画面が表示されます。



[拡張機能の設定] 画面の [タッチパッド] タブで設定できる機能は、次のようになっています。

ボタンの設定	タッチパッドの左上、右上、左下、右下をタッピングしたときの動作や、各ボタンの動作などを設定できます。
タッチパッド面の設定	タッチパッドでブラウザの動作をしたり、スクロールをしたりできるよう設定できます。
ポインタ速度とタッピングの設定	タッチパッド操作でのポインタ速度やタッピング、タッチ感度などの各設定ができます。

各項目にポインタをあわせると、画面下部の [説明] フィールドに機能説明が表示されます。

3 その他の設定

[拡張機能の設定] 画面の [その他] タブは、タッチパッドの操作に合わせて音を鳴らしたり、タッチパッドで手書き入力をするなど、いろいろな設定ができます。

[マウスのプロパティ] 画面で、次のように操作してください。

1 [拡張] タブで [拡張機能の設定] ボタンをクリックする

[拡張機能の設定] 画面が表示されます。

2 [その他] タブを選択する



【サウンドフィードバック】

チェックすると、タッチパッドの操作に合わせてサウンドを鳴らすことができます。

[設定] ボタンをクリックすると、[サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ] 画面が表示されます。

[サウンド] タブの [プログラムイベント] で「Alps Pointing Device Driver」の各場面のサウンド設定を行ってください。

【タスクトレイアイコン】

チェックすると、通知領域に [Touch Pad] アイコン () が表示されます。

購入時にはチェックされています。

【IMEキャプチャー】

チェックすると、タッチパッドをIMEパッドの手書き入力エリアとして使用できます。

使用中は、ポインタが羽に変わります。使用中に右クリックすると入力エリアがクリアされ、左クリックすると使用が解除されます。

各項目にポインタをあわせると、画面下部の [説明] フィールドに機能説明が表示されます。

4) タッチパッドを無効／有効にするには

[タッチパッド ON/OFF] タブでは、タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。



【タッチパッドの ON/OFF】

[有効] をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、[無効] をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。

タッチパッドの有効／無効は、(Fn)+(F9)キーでも切り替えることができます。(Fn)+(F9)キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると正常に操作できるようになります。

5) マウスの設定

マウス（別売り）のボタンなどの設定もできます。

USB 対応マウスの接続方法については「4章 4 USB 対応機器を接続する」を参照してください。

マウスの使用方法は『基本をマスター 1章 1-② マウス』を参照してください。

1 マウスの設定を変更する

[ボタン] タブで設定します。



ボタンの構成	マウスの右ボタンと左ボタンの役割を入れ換えます。
ダブルクリックの速度	スライダーバーを動かして、ダブルクリックするときの速度を調整します。
クリックロック	マウスのボタンを押したままにしないで、ドラッグできるようにします。

役立つ 操作集

ポインタの形や速度を変える

[マウスのプロパティ] では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。

[ポインタ] タブでは形を、[ポインタオプション] タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡などを設定できます。



ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を起動後、画面右上の **?** をクリックする
ポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

5 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1024 × 768 ドット）が内蔵されています。ドットは点の数を表します。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

▶ 参照 外部ディスプレイの接続について
「4 章 6 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。非点灯、常時点灯などの表示が存在することがありますが、故障ではありませんので、あらかじめ了承してください。

1 ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

1920 × 1440 ドット	1,677 万色
1600 × 1200 ドット	
1400 × 1050 ドット	
1280 × 1024 ドット	
1024 × 768 ドット	
800 × 600 ドット	

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

1,677 万色はディザリング表示です。

ディザリングとは、1 ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。

- 1 **【コントロールパネル】** を開き、[ **デスクトップの表示とテーマ**] をクリック→ [ **画面**] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 **【設定】** タブの **【画面の解像度】** で、解像度を変更する



- 3 **【OK】** ボタンをクリックする

2 時間帯で壁紙を変える

「くるくる壁紙チェンジャー」を使って、デスクトップの壁紙を時間帯に応じて自動的に切り替えられます。また記念日や予定のある日には、イベントアイコンをデスクトップに表示できます。

1 壁紙を変える

「くるくる壁紙チェンジャー」を使用するには、あらかじめ次の設定を行ってください。

- 1 **【コントロールパネル】** を開き、[ **デスクトップの表示とテーマ**] をクリックする
- 2 **【デスクトップの背景を変更する】** をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

- 3 [デスクトップ] タブで [参照] ボタンをクリックする
- 4 [マイドキュメント] をクリックする
- 5 [dynabookFun 壁紙] をクリックし①、[開く] ボタンをクリックする②



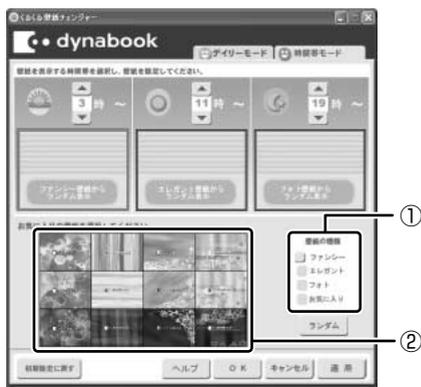
- 6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

【用意されている壁紙から選択する】

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [くるくる壁紙チェンジャー] をクリックする
- 2 [時間帯モード] タブで設定する時間帯を選択する



3 [壁紙の種類] で壁紙の種類を選択し①、[お気に入りの壁紙を選択してください] から壁紙を選択する②



①の [壁紙の種類] で [ファンシー] [エレガント] [フォト] をクリックすると、②の [お気に入りの壁紙を選択してください] に表示される壁紙のサンプルが変わります。

[ランダム] ボタンをクリックすると、[お気に入りの壁紙を選択してください] に表示される壁紙のサンプルの中からランダムに切り替えます。

選択された画像は上の赤い枠内に表示されます。

参照 ➡ [お気に入り] をクリックした場合
「本項 - お気に入りの画像を壁紙に設定する」

手順2と3を繰り返し、それぞれの時間帯の時間の設定と壁紙の選択をしてください。

4 [OK] ボタンをクリックする

【お気に入りの画像を壁紙に設定する】

1 お気に入りの画像ファイルを [マイ ピクチャ] フォルダの [くるくるお気に入り] フォルダにコピーする

壁紙として選択できるファイル形式は、JPEG、GIF、BMPです。

2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [くるくる壁紙チェンジャー] をクリックする

3 [時間帯モード] タブで設定する時間帯を選択する

2 [デイリーモード] タブで [壁紙設定カレンダー] から年月を選択し

①、日付を選択する②



3 イベントアイコンを選択し、メッセージを入力する

メッセージは全角で10文字まで入力できます。

イベントアイコンを表示する日の壁紙を設定する場合は手順4へ進んでください。

[時間帯モード] タブで設定した壁紙と同じ壁紙にイベントアイコンを表示する場合は手順5へ進んでください。

4 [壁紙の種類] で壁紙の種類を選択し①、 ボタンで壁紙を選択する②



選択した壁紙のサイズが画面サイズより小さい場合は、[表示位置] で [並べて表示] を選択すると同じ画像を並べて表示することができます。

5 [OK] ボタンをクリックする

メモ

- 設定できるイベント数は1日1件、最大50日です。
- 手順4で[並べて表示]を選択した場合、[お気に入りの壁紙を選択してください]では4分割に表示されますが、実際の表示とは異なります。

3 初期設定に戻す

それぞれのタブの[初期設定に戻す]ボタンを使うと、購入時の設定に戻ります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [くるくる壁紙チェンジャー] をクリックする
- 2 初期設定に戻すタブを選択し、[初期設定に戻す] ボタンをクリックする
- 3 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

メモ

「マイドキュメント」フォルダのファイル「dynabookFun壁紙.html」は削除しないでください。削除すると、次に起動したときに壁紙やイベントアイコンのすべての設定が無効になります。誤ってファイルを削除したときは、「くるくる壁紙チェンジャー」を起動して[OK]ボタンをクリックすると「dynabookFun壁紙.html」が作成され、設定が有効になります。

ヘルプの起動方法

- 1 「くるくる壁紙チェンジャー」を起動後、[ヘルプ] ボタンをクリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐに拭き取ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

6 ハードディスクドライブ

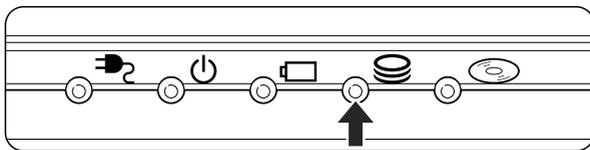
内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
PC カードタイプ（TYPE II）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- Disk  LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクやCD-RW、CD-Rなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD-RW、CD-Rなどに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気プレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk  LED が点灯します。



PC カードタイプや USB 対応機器などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk  LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。
万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

7 サウンド機能

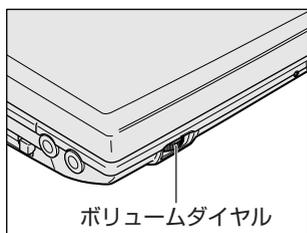
本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1) スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには右に、小さくしたいときには左に回します。



2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするるとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



【音楽／音声を再生するとき】

ボリュームコントロールの各項目では次の音量が調整できます。

Volume Control	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽CD (BeatJam、Windows Media Playerの場合)、DVD-Video など
CD Player	音楽CD (BeatJam、Windows Media Player 以外の場合)

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] をチェックする
[Microphone] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [Recording Control] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[Microphone] : 外部マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する
同時に2つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声が「Volume Control」の [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

8 ドライブ

本製品には、マルチドライブ 1 台が内蔵されています。

マルチドライブは CD-R/RW ドライブと DVD-ROM ドライブ両方の機能を持ちます。『安心してお使いいただくために』に、CD / DVD を使用するとき守ってほしいことが記述されています。

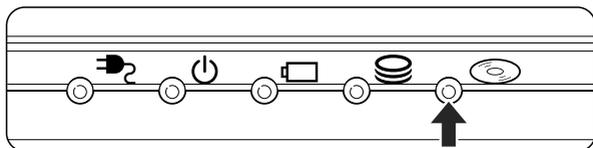
CD / DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時的停止ができない場合があります。

ドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、ドライブが動作しているときは、CD-ROM  LED が点灯します。



1 使用できるメディアと対応するアプリケーション

【使用できるメディア】

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み出し	○	○	○ ^{*1}	○ ^{*1}	○ ^{*1}	×	×
書き込み回数	1 回	繰り返し書換可能 ^{*2}	×	×	×	×	×

* 1 使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

* 2 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

【アプリケーションとメディア】

CD-R、CD-RWには本製品に付属の「Drag'n Drop CD + DVD」で書き込みができます。

2) 使用できるCD

読み出しできるCDは、次の種類です。

- 音楽用CD
8cmまたは12cmの音楽用CDが聴けます。
- フォトCD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのもので使用できます。
- CD エクストラ
記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできるCDは次の種類です。

- CD-R
書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
- CD-RW

書き込み速度は使用するメディアによって異なります。

CD-R : 最大24倍速

最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。

マルチスピードCD-RWメディア : 最大4倍速

High-Speed CD-RWメディア : 最大10倍速

Ultra Speed CD-RWメディア : 最大24倍速

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。
CD-RW (マルチスピード、High-Speed)
：三菱化学 (株)、(株) リコー
CD-RW (Ultra Speed)
：三菱化学 (株)
CD-R : 太陽誘電 (株)、三菱化学 (株)、(株) リコー、日立マクセル (株)
これらのメーカー以外の CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。
▶ 参照 エラーチェック《サイバーサポート》
- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

3) 使用できる DVD

読み出しできる DVD は、次の種類です。

- DVD-ROM ● DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)
- DVD-R ● DVD-RW ● DVD-RAM

【 DVD-RAM の種類 】

DVD-RAM にはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できる DVD-RAM は次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出しする面を変更するときは、1 度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし* ¹	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）* ²	○

* 1 一部の家庭用DVDビデオレコーダでは再生できない場合があります。

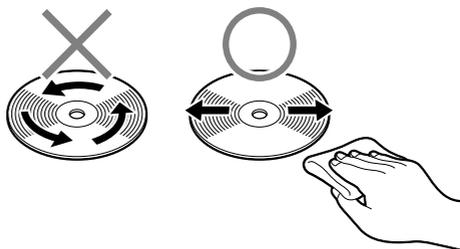
* 2 2.6GB、5.2GBのディスクは使用できません。

CD / DVDの取り扱いと手入れ

CD / DVDの内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVDを折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVDを読み込むことができなくなります。
- CD / DVDを直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVDの上に重いものを置かないでください。
- CD / DVDは専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVDを持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVDのデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVDが汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



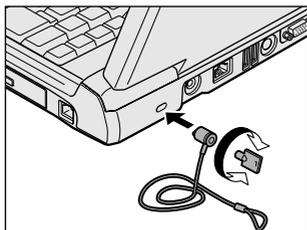
9 セキュリティロック

セキュリティロック・スロットに、チェーンなどを接続して、盗難を防止します。

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを、購入店に確認してください。

1 セキュリティロック用機器の取り付け

- 1 セキュリティロック・スロットに市販のセキュリティロック用の機器を接続する



2章

音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それをCDに書き込んでオリジナルを作成する。DVD-Videoの映像を観る。パソコンの楽しみかたを紹介します。

1	音楽CDを聴く	52
2	音楽ファイルを聴く	56
3	オリジナル音楽CDを作る	63
4	DVD-Videoを観る	68

1 音楽 CD を聴く

本製品で音楽 CD を聴くことができます。

メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

1 Windows を起動して音楽 CD を聴く

音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- BeatJam ビートジャム
- Windows Media Player ウィンドウズ メディア プレーヤ

1 起動方法

1 Windows が起動している状態で、音楽 CD をセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

参照▶ CD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

[Audio CD (D:)] 画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (D:) ドライブを右クリックし、[自動再生] をクリックしてください。

2 使用するアプリケーションを選択し、[OK] ボタンをクリックする

使用するアプリケーションが「BeatJam」の場合は、[オーディオ CD の再生 BeatJam 使用]、[Windows Media Player] の場合は、[オーディオ CD を再生します Windows Media Player 使用] を選択してください。選択したアプリケーションが起動します。

[BeatJam] を起動したいのに [Audio CD (D:)] 画面に [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用] が表示されない場合は、[閉じる] ボタン () をクリックして画面を終了し、[スタート] → [すべてのプログラム] → [JUSTSYSTEM アプリケーション] → [BeatJam] → [BeatJam] をクリックして起動してください。

次回から [Audio CD (D:)] 画面に [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用] が表示されるように、「BeatJam」で設定できます。

参照▶ 設定方法『困ったときは 3 章 Q BeatJam が起動できない』

BeatJam を初めて起動したとき

初めて起動したときは、[使用許諾契約の確認] 画面が表示されます。契約内容を読んで、[同意する] ボタンをクリックしてください。[同意する] ボタンをクリックしないと、「BeatJam」を使用できません。

Windows Media Player を初めて起動したとき

初めて起動したときは、[Windows Media Player 9 シリーズへようこそ] 画面が表示されます。画面の指示に従ってプライバシーオプションとインストールオプションを設定してください。

インストールオプションの設定では、[ファイルの種類] タブで [DVD ビデオ] のチェックをはずしてください。

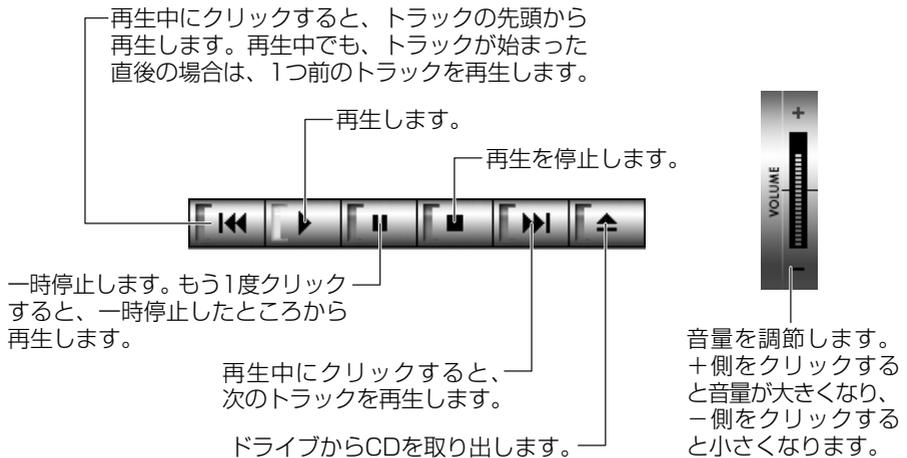


DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」の使用を推奨します。

2 操作画面

アプリケーションごとの各操作ボタンの役割は次のとおりです。

BeatJam を起動した場合



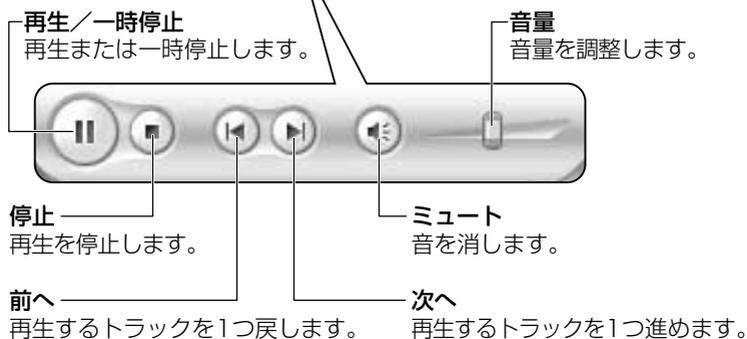
【ヘルプの起動方法】

- 1 「BeatJam」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [BeatJamの使い方] をクリックする

参照 → 「BeatJam」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

Windows Media Player を起動した場合

Windows Media Player の画面の上の方にポインタをあわせるとタイトルバーやメニューバーが表示されます。



【ヘルプの起動方法】

- 1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【トピックの検索】をクリックする

参照 ▶ 「Windows Media Player」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

- WAVE形式 (.wav) •MIDI形式 (.mid) •MP3形式 (.mp3) など

メモ

「BeatJam」はMP3ファイルの再生は可能ですが、MP3形式のデータを作成することはできません。

1 BeatJamでファイルを再生する

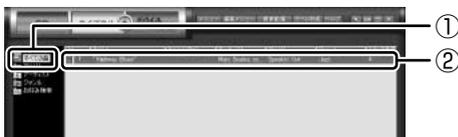
1 音楽ファイルを直接再生する

次のようにファイルを再生します。

- 1 [ライブラリ] ボタン () をクリックする
[ライブラリ] 画面が表示されます。



- 2 画面左にある一覧で [すべての曲] をクリックし①、[マイコンピュータ] などで再生したい音楽ファイルを「BeatJam」のメイン画面にドラッグアンドドロップする②



音楽ファイルはアルバム名やアーティスト名によって、自動的にカテゴリに分類されて追加されます。

プレイリストが作成されている場合、プレイリストにドラッグアンドドロップするとそのプレイリストにも追加されます。

参照 ▶ プレイリストについて「本項 2 プレイリストを作成する」

3 画面左でカテゴリやグループを選択し①、表示された一覧から再生したいファイルを選択する②



このとき画面左の「すべての曲」をクリックすると、カテゴリやグループに分けず、すべてのファイルが表示されます。

4 [再生] ボタン (▶) をクリックする

選択したトラックが再生されます。

選択したトラックのあとは、一覧に表示されている順に再生されます。

2 プレイリストを作成する

音楽ファイルを好きな順序に並べてプレイリストを作成すると、複数の音楽ファイルを聴きたい順番で再生することができます。

1 ライブラリにファイルを追加する

ライブラリにファイルを追加して、プレイリスト作成の準備をします。

● 音楽 CD のトラックをコピーする場合

① [CD] ボタン (CD) をクリックする

[CD] 画面が表示されます。

② 音楽 CD をドライブにセットする

自動的に再生が始まったときは、[停止] ボタン (■) をクリックして停止してください。

[Audio CD] 画面が表示されたときは、[キャンセル] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

③ 一覧で、録音したいトラックの左側にあるボックスをチェック (☑) する 一覧の左下にある ☑ をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されます。☐ をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されません。

④ [曲のビットレート] (132k 105k 66k) で、どのビットレートで録音するかを選択する

ビットレート数が高いほど、良い音質で録音されます。

⑤ [録音] ボタン (▶) をクリックする

[CDの録音] 画面が表示され、録音が始まります。

⑥ 録音が終わったら、[閉じる] ボタンをクリックする

曲情報を取り込む

音楽 CD の情報を Gracenote CDDb から取り込むことができます。Gracenote CDDb については、BeatJam のヘルプを確認してください。Gracenote CDDb は、ユーザ登録しないと使用できません。Gracenote CDDb で曲の情報を取り込めないときは、[Artist] にアーティスト名や、[Genre] にジャンル名を入力します。ジャンル名はメニューから選択することもできます。

- ファイルを追加する場合

「本項 1 音楽ファイルを直接再生する」の手順 2、3 を参照して、音楽ファイルをライブラリに追加してください。

2 [ライブラリ] ボタン () をクリックする

3 [編集メニュー] ボタン () をクリックして、表示されるメニューから [プレイリストの新規作成] をクリックする

[プレイリストの一覧] に「New Playlist」という新しいプレイリストが作られます。



4 新しいプレイリストの名前を入力し、(Enter) キーを押す

プレイリスト名が確定されます。

5 追加したいファイルが含まれているグループを、画面左の一覧にある [すべての曲] ~ [お好み検索] から選択する

6 一覧から、プレイリストへ追加するファイルを選択する



(Ctrl) キーを押したままファイルをクリックすると、順番が離れている複数の曲を選べます。

(Shift) キーを押したままファイルをクリックすると、順番が続いている複数の曲を選べます。

- 7 選択したファイルをドラッグし、画面左の一覧にある、追加したいプレイリストの上でドロップする
プレイリストに曲が追加されます。

3 プレイリストから再生する

- 1 [ライブラリ] ボタン () をクリックする
- 2 画面左の一覧にある [プレイリスト] の中から、聴きたいプレイリストをクリックする
- 3 [再生] ボタン () をクリックする
一覧に表示されている順に再生されます。

2) Windows Media Player でファイルを再生する

まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。

音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

1 音楽ファイルを直接再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

- 1 [Windows Media Player] のメニューバーから [ファイル] → [開く] をクリックする

2 聴きたい曲のファイルを選択し①、[開く] ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

参照 → Windows Media Player の操作について

「本章 1-①-2-Windows Media Player を起動した場合」

2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル（CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど）をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

1 メディアライブラリにファイルを追加する

● 音楽 CD のトラックをコピーする場合

- ① 音楽 CD をセットする
- ② [CD から録音] ボタンをクリックする
- ③ コピーするトラックをチェックする
- ④ [音楽の録音] ボタンをクリックする
- ⑤ [録音オプション (1 / 2)] 画面でオプションを選択する
- ⑥ 「CD から録音される音楽が、…」の項目を読み、チェックする
- ⑦ [次へ] ボタンをクリックする
- ⑧ [録音オプション (2 / 2)] 画面でオプションを選択する
- ⑨ [完了] ボタンをクリックする

● ファイルを追加する場合

- ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [ファイルまたは再生リストを追加] をクリックする
- ② [ファイルを開く] 画面でファイルを選択する

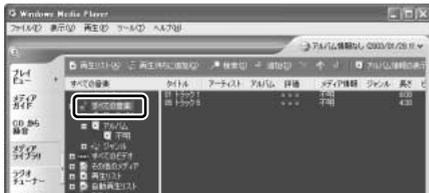
- インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [URL を追加] をクリックする
 - ② [開く] 画面で URL またはパスを指定する

2 [メディアライブラリ] ボタンをクリックする



メディアライブラリを初めて使うときに限り、メッセージが表示されます。
[いいえ] ボタンをクリックしてください。

3 [すべての音楽] をクリックする



メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

4 [再生リスト] ボタンをクリックし①、表示されたメニューから [新しい再生リスト] をクリックする②

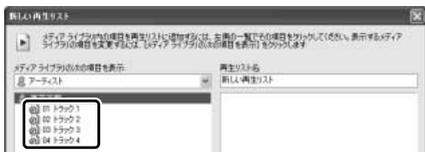


5 [メディア ライブラリの次の項目を表示] で再生リストに追加したいファイルのカテゴリを選択し①、表示されたカテゴリから目的の項目を選択する②



ファイルの一覧が表示されます。

6 再生リストに追加するファイルをクリックする



クリックしたファイルが、[再生リスト名] の下に表示されます。

7 [再生リスト名] に再生リストの名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②



ここでは例として再生リスト名を「新規リスト」とします。

ファイルが再生リストに追加されます。
新しい再生リストが作成されました。

3 再生リストから再生する

1 [メディアライブラリ] 画面で、目的の再生リストをクリックする



リストの内容が右画面に表示されます。

2 [再生] ボタン (▶) をクリックする

再生が開始されます。

3 オリジナル音楽CDを作る

ドラッグ&ドロップシーディープラスディーブイディー

「Drag'n Drop CD + DVD」は、CD-RW、CD-R にデータを書き込むことができるアプリケーションです。

ここでは、オリジナルの音楽CDを作成する手順について説明します。

データのバックアップを作成する手順については、『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』を参照してください。

1 Drag'n Drop CD + DVD を使うために

お願い CD-RW、CD-R に書き込む前に

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD + DVD」を使用してください。本製品に添付の「Drag'n Drop CD + DVD」以外のCD-RW、CD-R ライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows標準のライティング機能や市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。

CD-RW、CD-Rに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

参照 ▶ CD-RW、CD-Rについて 「1 章 8-② 使用できるCD」

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

参照 ▶ 省電力機能について 「5 章 バッテリー駆動」

- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。

- ・ スクリーンセーバ
- ・ ウイルスチェックソフト
- ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
- ・ モデムなどの通信アプリケーション など

ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。

- フロッピーディスク、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「Drag'n Drop CD + DVD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザを切り替えるなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PC カード、USB 対応機器、外部ディスプレイ
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

2 Drag'n Drop CD + DVD を使う

購入時の状態では、「Drag'n Drop CD + DVD」は、自動的に起動しデスクトップ上にアイコンが表示されます。

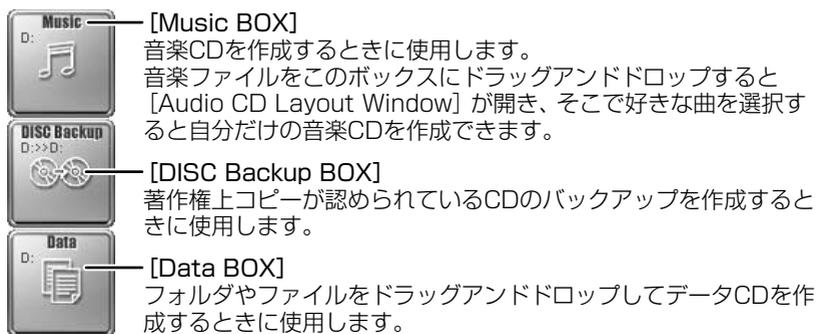
「Drag'n Drop CD + DVD」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD + DVD] → [Drag'n Drop CD + DVD] をクリックする
デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

2 Drag'n Drop CD + DVDの基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



参照 ▶ 詳細については『困ったときは2章2バックアップをとる』

CDに保存されているWMA方式またはWAVE方式の音楽ファイルを使用して音楽CDを作成する場合は、CDから直接 [Music BOX] にドラッグできません。1度ハードディスクに保存してから音楽CDを作成してください。

3 音楽CDを作成する

1 音楽CDをドライブにセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示された場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

3 [Audio CD (D:)] アイコン () を、[Music BOX] にドラッグアンドドロップする

[Audio CD Layout Window] 画面が表示され、[音楽CDトラック情報] には曲情報が表示されています。

4 [ブランクCDサイズ] を指定する

5 書き込みたいトラックを選択する

トラックは複数選択できます。

[再生] ボタン () をクリックすると試し聴きできます。



6 [選択トラックをリストに追加] ボタン () をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、[デジタル抽出状況] のバーで確認できます。[ベストアルバムトラック情報] に抽出した曲が表示されます。



曲順を入れ替えたい場合は、トラックを選択して移動したい位置へドラッグアンドドロップします。

不要なトラックは  ボタンで削除できます。

他の音楽 CD から取り込みたい場合は、ここで音楽 CD を入れ替え、手順 5、6 を繰り返します。

7 音楽 CD を取り出し、未使用の CD-R をセットする

8 [書き込み] ボタン () をクリックする

CD への書き込みが開始されます。書き込みが終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD + DVD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD + DVD] → [Drag'n Drop CD + DVD Help] をクリックする
「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプが表示されます。

参照 → 「Drag'n Drop CD + DVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 Drag'n Drop CD + DVD を終了する

「Drag'n Drop CD + DVD」を終了するときは、次の手順で行います。

- 1 通知領域の [Drag'n Drop CD + DVD] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする
デスクトップに表示されていたアイコンが消えます。

4 DVD-Video を観る

本製品のドライブに DVD-Video をセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video 再生ソフトウェアとして、インタービデオ ウィンディーブイデー「InterVideo WinDVD」が用意されています。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用して DVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
- DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
- DVD-Video 再生時は、AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。

再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。

- CRT やテレビなどの外部ディスプレイに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、マルチモニタ（内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）の設定では、外部ディスプレイに表示するための設定が必要です。

マルチモニタで DVD-Video を再生すると、画像がコマ落ちすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、内部液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみに表示するか、拡張表示に設定してください。

参照▶ 表示装置の切り替え「4章 5-2 テレビに表示する」

その他の注意については、「Readme」に記載しています。

「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme1st.txt] をクリックしてください。

1 InterVideo WinDVD を起動する

「InterVideo WinDVD」を起動する方法は、次のとおりです。

1 起動方法

1 DVD-Video をセットする

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

参照 DVDのセットについて『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

アプリケーションを選択する画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (D:) ドライブをダブルクリックしてください。

「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 [DVDムービーの再生 InterVideo WinDVD 使用] を選択し①、 [OK] ボタンをクリックする②



「InterVideo WinDVD」が起動します。

メモ

[スタート] メニューから「InterVideo WinDVD」を起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [InterVideo WinDVD] をクリックしてください。

2 InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウと WinDVD コントロールパネルが表示されます。

再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。
また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

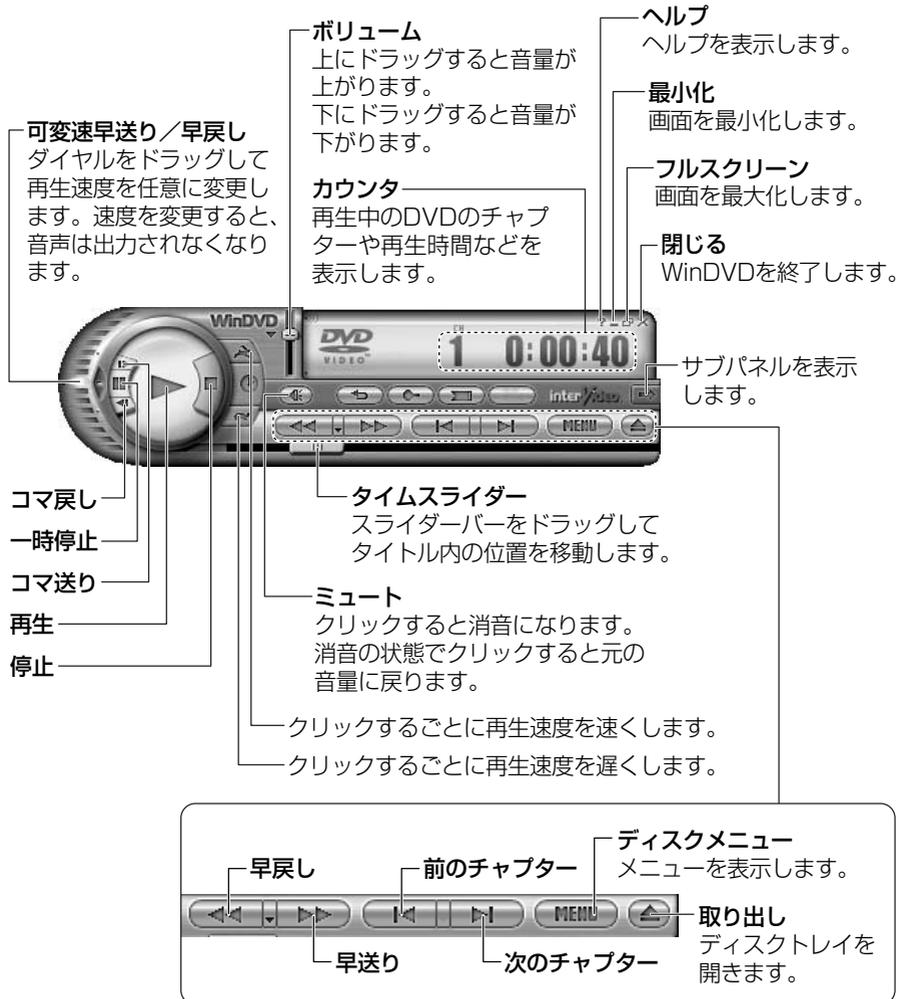
メインウィンドウ
ビデオを表示します。



WinDVDコントロールパネル
DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。
再生の操作でおもに使用するボタンについては、
「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照して
ください。

1 WinDVDコントロールパネル

DVD再生のときは、おもに次のボタンを使用します。
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。



2 サブパネル

サブパネルで、再生する DVD に応じてオーディオ、ビデオ、その他の付加機能を調節することができます。

【サブパネルの表示と切り替え】

- 1 WinDVD コントロールパネルの [サブパネル] ボタンをクリックする



- 2 表示されたメニューから調節する機能を選択し、クリックする

【サブパネルの非表示】

表示しているサブパネルを閉じる場合は、次のように操作してください。

- 1 [サブパネルを閉じる] ボタンをクリックする



3 基本設定の変更

「InterVideo WinDVD」を使用するときの全体的な設定は [セットアップ] 画面で行います。この設定は、再生するすべてのディスクに適用されます。

- 1 サブパネルの [セットアップ] ボタンをクリックする



[セットアップ] 画面が表示されます。
各タブで設定を行ってください。

4 テレビに表示する

パソコン本体にテレビを接続して、DVD-Videoの再生画面をテレビに表示させることができます。

テレビに表示するには、表示装置の切り替えが必要です。

表示装置の切り替えは、「InterVideo WinDVD」を起動する前に行ってください。

 参照 → テレビの接続、表示装置の切り替え 「4章 5 テレビを接続する」

ヘルプの起動方法

- 1 WinDVDコントロールパネルの【ヘルプ】ボタン () をクリックする

 参照 → 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 76
 - 2 内蔵モデムについて 83

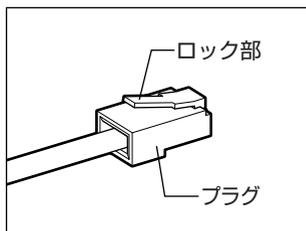
1 LANへ接続する

1 ケーブルを使ったLAN接続

本製品には、ブロードバンド対応のLAN機能が内蔵されています。LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

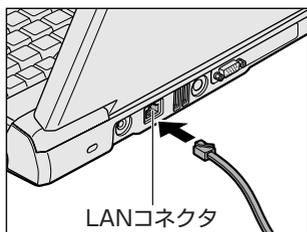
1 LANケーブルの接続

LANインタフェースを100BASE-TX規格(100Mbps)で使用するときには、必ずカテゴリ5(CAT5)以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。10BASE-T規格(10Mbps)で使用するときには、カテゴリ3(CAT3)以上のケーブルが使用できます。カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

- 1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 2 LANケーブルのプラグを背面のLANコネクタに差し込む



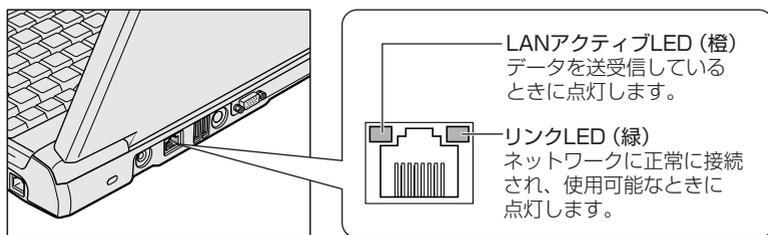
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

お願い

購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行ってください。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする

2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2 ネットワーク設定に便利な機能

コンフィグフリー

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示することができます。さらに、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を登録しておけば、プロファイルを選択するだけで、設定を切り替えることができます。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者アカウントで使用してください。

「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windows を起動すると通知領域にアイコン () が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree] をクリックする

[ConfigFree (ネットワーク診断)] 画面が表示されます。

[タスクトレイに常駐する] をチェックすると、通知領域にアイコン () が表示されます。

「ConfigFree」を起動したときは、「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降必要のない場合は、[次回から表示しない] をチェックし、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

1 ネットワークの診断を行う

「ConfigFree」では、ネットワークの状態を診断し、問題があればその原因と対応策を表示します。

- 1 通知領域の【ConfigFree】アイコン () をクリックし、表示されたメニューから【ネットワーク診断】をクリックする
【ConfigFree (ネットワーク診断)】画面が表示されます。

【ConfigFree (ネットワーク診断)】画面】



 は、問題が見つかったデバイスに表示されるマークです。

 をクリックすると、問題点と対応策が表示されます。

また、画面上でネットワークデバイスのイラストにポインタをあわせると、それぞれのデバイスの説明や IP アドレスなどの情報が表示されます。

2 デバイスを切り替える

「ConfigFree」では、次のように操作をして、デバイスを簡単に切り替えることができます。

- 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () をクリックし、表示されたメニューから有効/無効にしたいデバイス名にポインタを合わせ①、有効/無効をクリックする②



デバイスの切り替えが行われます。

【その他のデバイス設定】

[ConfigFree] アイコン () → [デバイス] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (デバイス設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- 自動切り替え (ケーブル切断)
PC カードタイプなどの無線 LAN 機器を接続した場合のみ使用できます。
[ネットワークケーブル切断時に無線 LAN へ切り替えます] をチェックすると、有線 LAN ケーブルが抜けたとき、自動的に無線 LAN が有効になります。
- ネットワークとダイヤルアップ接続
[ネットワーク接続] ボタンをクリックすると [ネットワーク接続] 画面が表示され、ネットワーク接続とダイヤルアップ接続の設定が行えます。

3 ネットワーク設定を切り替える

「ConfigFree」では、ネットワーク設定をプロファイルで管理しているため、プロファイルを選択するだけで、以前登録したネットワーク設定内容に切り替えることができます。

1 通知領域の【ConfigFree】アイコン () をクリックする

メニューが表示されます。

【プロファイル】の下に表示されている項目が、登録済みのプロファイルです。左側にチェックがついている項目が、現在選択されているプロファイルです。

2 使用したいプロファイルをクリックする

ネットワーク設定の切り替えが行われます。

【その他のプロファイル設定】

【ConfigFree】アイコン () → 【プロファイル】 → 【開く】 をクリックすると、【ConfigFree (プロファイル設定)】画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

● プロファイルの追加

【追加】 ボタンをクリックすると、プロファイル作成の説明画面が表示されるので、内容を確認したら、【OK】 ボタンをクリックして画面を閉じてください。【プロファイルの追加】画面が表示されます。登録したいプロファイルの内容を設定してください。プロファイルが追加されます。

● プロファイルの削除

プロファイルリストから削除したいプロファイル名を選択し、【削除】 ボタンをクリックしてください。

● 自動切り替え (SSID)

PC カードタイプなどの無線 LAN 機器を接続した場合のみ使用できます。

【自動切り替え】 ボタンをクリックすると、自動切り替えについての説明画面が表示されるので、内容を確認したら、【OK】 ボタンをクリックして画面を閉じてください。【自動切り替え】画面が表示されます。【自動切り替え (SSID)】 タブで【自動切り替え (SSID)】 をチェックしてください。

接続した無線 LAN ネットワーク (SSID) の設定が登録済みのプロファイルとして検知された場合、自動的にプロファイルが切り替わります。

終了方法

- 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする

「ConfigFree」の詳細については、ヘルプまたはファーストユーザーズガイドを確認してください。

ヘルプの起動方法

- 1 「ConfigFree」を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする
[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree ファーストユーザーズガイド] をクリックする

2 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年10月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 設定方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [Modem Region Select] をクリックする

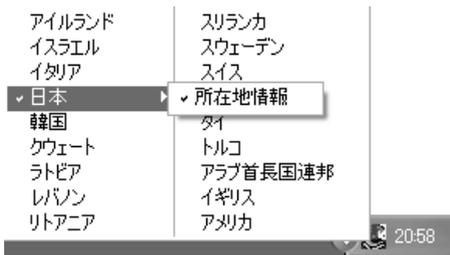
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



- 2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつかます。



- 3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COMポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1	周辺機器について	88
2	フロッピーディスクドライブを接続する	90
3	PCカードを接続する	96
4	USB 対応機器を接続する	99
5	テレビを接続する	101
6	外部ディスプレイを接続する	106
7	その他の機器を接続する	107
8	メモリを増設する	110

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- マウス
- PC カード
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- スキャナ
- デジタルカメラ
- モデム（本製品では内蔵）
- プリンタ
- フロッピーディスクドライブ（本製品では同梱）
- 増設メモリ

* 増設の際は、メモリ購入前に「本章 8 メモリを増設する」をご覧ください。

 **参照** 周辺機器の接続場所について「1 章 1 各部の名前」

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。

- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続すると Windows がドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかったら、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

[ハードウェアの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

2 フロッピーディスクドライブを接続する

本製品では、同梱のUSB接続タイプのフロッピーディスクドライブを使用できます。フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、他のパソコンとデータをやり取りすることができます。

お願い フロッピーディスクドライブの使用にあたって

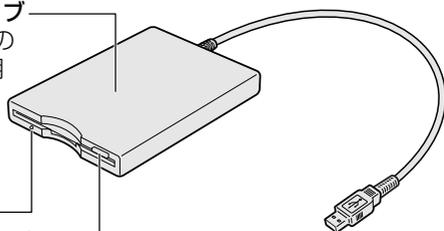
- フロッピーディスクドライブは、必ず水平に置いて使用してください。また、フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。
データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（FDD LEDが点灯しているとき）に電源を切ったり、USBケーブルを抜いたりイジェクトボタンを押したりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。また、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出してください。

1) フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブについて説明します。同梱のフロッピーディスクドライブには、専用のドライバは必要ありません。本製品に取り付ければ使用できます。フロッピーディスクドライブの取り付け／取りはずしについては、「本章 4 USB対応機器を接続する」を確認してください。

フロッピーディスクドライブ
3.5型の2HD、2DD形式のフロッピーディスクが使用できます。

FDD LED
点灯中は、フロッピーディスクにアクセスしていることを示します。



イジェクトボタン
フロッピーディスクを取り出すときに、このボタンを使用します。

役立つ
操作集

パソコンをフロッピーディスクから起動する場合

購入時の設定では、ハードディスクドライブからシステムを起動します。
フロッピーディスクドライブから起動したい場合、次の方法で変更できます。

【常にパソコンをフロッピーディスクドライブから起動する場合】

- ① [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [ 東芝HWセットアップ] をクリックする
- ③ [OSの起動] タブで [OSの起動] を [FDD] が最初になるように設定する
- ④ [OK] ボタンをクリックする

【一時的にパソコンをフロッピーディスクドライブから起動する場合】

- ① (F12) キーを押しながら、電源スイッチを押す
[起動ドライブ選択] 画面が表示されます。
- ② (←) または (→) キーで、フロッピーディスクのアイコン  を選択し、(Enter) キーを押す

2) フロッピーディスク

フロッピーディスクには、文書や表などのデータを保存することができます。

1 使用できるフロッピーディスク

本製品に同梱のフロッピーディスクドライブで使用できるフロッピーディスクには3種類あり、それぞれの機能は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量	読み出し/書き込み	フォーマット
2DDタイプ	720KB	可	不可
2HDタイプ	1.2MB	可	不可
2HDタイプ	1.44MB	可	可

ソニー（株）製の3.5型フロッピーディスク（2DD / 2HD）を使用することを推奨します。

他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかつたり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

2 フロッピーディスクの内容を確認する

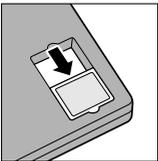
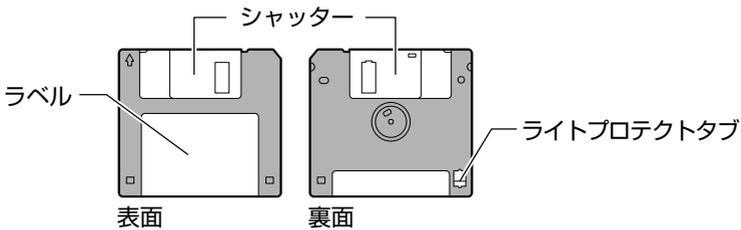
1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

2 [ 3.5 インチ FD (A:)] をダブルクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3) フロッピーディスクを使う前に

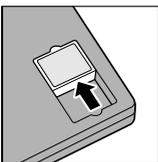
1 ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを動かすことにより、誤ってデータを消さないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクは、データの書き込みはできず、読み取りしかできません。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りも可能です。

2 フォーマットとは

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

お願い

- フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

フォーマットできるのは、2HDタイプ（1.44MB）のフロッピーディスクのみです。2HDタイプ（1.44MB）のフロッピーディスクであることを確認してからフォーマットしてください。

次のフロッピーディスクは、フォーマットしてから使用してください。

- フォーマットされていないもの
- Windows 以外のシステムでフォーマットされたもの

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOSの起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。

オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。

すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかもチェックされます。

【クイックフォーマット】

以前にWindowsでフォーマットしたことのあるフロッピーディスクに実行できません。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われません。フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。

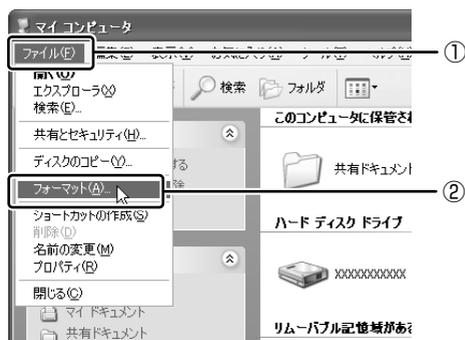
【MS-DOSの起動ディスクを作成する】

フォーマットまたはクイックフォーマットを行った後、MS-DOSの起動ディスクとして必要な情報をフロッピーディスクに書き込みます。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

3 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

- 1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。
- 3 [ 3.5 インチ FD (A:)] をクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。
- 4 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [フォーマット] をクリックする②
アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



[フォーマット 3.5 インチ FD (A:)] 画面が表示されます。

- 5 必要に応じて [フォーマットオプション] を設定し、[開始] ボタンをクリックする
クイックフォーマットを行う場合は、[クイックフォーマット] をチェックしてから、[開始] ボタンをクリックしてください。
メッセージが表示されます。
- 6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする
フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実行します。

フォーマットを終了する場合は、[フォーマット 3.5 インチ FD (A:)] 画面で [閉じる] ボタン () をクリックしてください。

フロッピーディスクドライブの手入れ

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。

フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。
汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5 ~ 35℃	4 ~ 53℃

- ラベルは正しい位置に貼ってください。
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

3 PCカードを接続する

目的に合わせた^{ピシー}PCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PCカードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- ^{スカジー}SCSI カード
- 無線 LAN カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1 PCカードを使う前に

本製品は、PC Card Standard 準拠のTYPE II対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用しているPCカードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

お願い

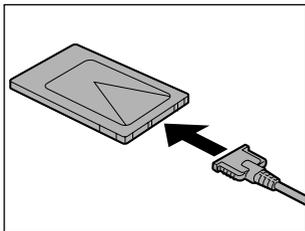
- ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2 PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

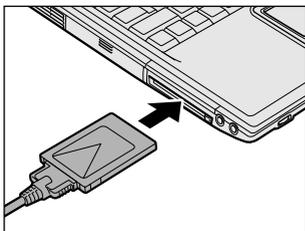
1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

お願い

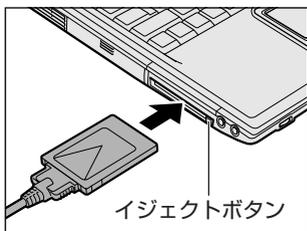
取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PCカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする

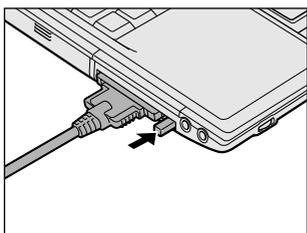
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



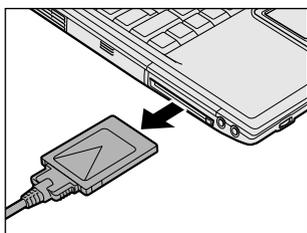
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう1度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

4 USB 対応機器を接続する

ユーエスピー

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- 同梱のフロッピーディスクドライブ
- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

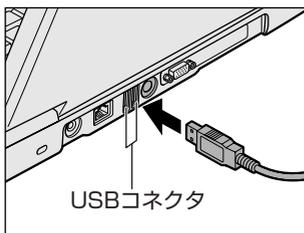
本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB 1.1 対応機器を取り付けることができます。

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから「XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します」をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、「閉じる」ボタン () をクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

5 テレビを接続する

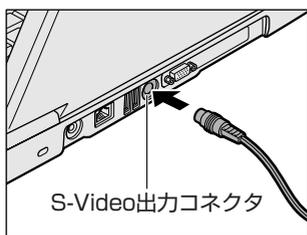
本製品の S-Video 出力コネクタとテレビを S 端子ケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

S-Video 出力コネクタは、ワイドテレビでアスペクト比（画面の縦・横の比）の異なる映像を自動的に識別する機能を持つ接続端子です。

市販の S 端子ケーブルは、4 ピンコネクタのケーブルを使用してください。

1 取り付け

- 1 S 端子ケーブルのプラグをパソコン本体の S-Video 出力コネクタに差し込む



- 2 S 端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビの S1/S2 映像入力端子に差し込む

音声はパソコンのスピーカーで聞か、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・データの読み込みや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間

【方法1—画面のプロパティで設定する】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [画面解像度を変更する] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする
- 4 [Intel(R) Extreme Graphics] タブで [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする
- 5 [デバイス] タブで表示する装置と形式を選択する



✓ がついているアイコンが現在の表示です。
変更するときは左側の表示装置のアイコンをクリックしたあと、形式を選択します。

- 内部液晶ディスプレイだけに表示
[ノートブック] アイコンをクリックしてください。
- テレビだけに表示
[テレビ] アイコンをクリックしてください。
[ビデオ標準] では 10 種類のモードが表示されますが、次の 3 つのみ使用してください。
 - ・ NTSC-M
 - ・ NTSC-J
 - ・ PAL-B
- 外部ディスプレイだけに表示
[PC モニタ] アイコンをクリックしてください。
- Clone 表示
2 つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。
 - ① [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリックする
 - ② 表示に合わせた設定をする

項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイでClone表示	ノートブック	PC モニタ
内部液晶ディスプレイとテレビでClone表示	ノートブック	テレビ

● 拡張表示

2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用できます。内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイまたはテレビの両方にクローン表示している場合、[画面のプロパティ] から拡張表示を設定できません。**(Ctrl) + (Alt) + (F12)**キーを押して設定画面を表示し、次のように操作します。

① [拡張デスクトップ] アイコンをクリックする

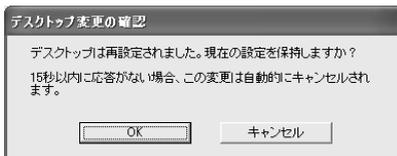
[拡張デスクトップ] アイコンが表示されていない場合は、 ボタンをクリックしてください。

② 表示に合わせた設定をする

項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイで拡張表示	ノートブック	PC モニタ
内部液晶ディスプレイとテレビで拡張表示	ノートブック	テレビ

6 [OK] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



7 [OK] ボタンをクリックする

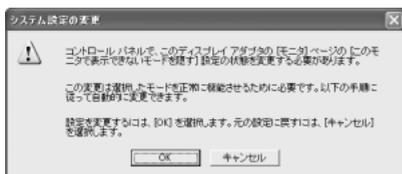
8 [OK] ボタンをクリックする

9 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

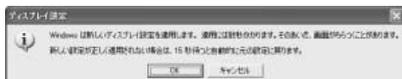
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

● [システム設定の変更] 画面



● [ディスプレイ設定] 画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



【方法2— (Fn) + (F5) キーを使う】

(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn) キーを離すと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置が LCD (内部液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、(Fn) + (F5) キーを 3 秒以上押し続けると、表示装置が LCD に戻ります。これは最初に (Fn) + (F5) キーを押したときのみ有効です。



- LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
外部ディスプレイが接続されていない場合、このアイコンは表示されません。
- CRT 外部ディスプレイだけに表示
外部ディスプレイが接続されていない場合、このアイコンは表示されません。
- LCD / TV 内部液晶ディスプレイとテレビに同時表示
テレビが接続されていない場合、このアイコンは表示されません。
- TV テレビだけに表示
テレビが接続されていない場合、このアイコンは表示されません。

「方法1」で[拡張表示]に設定した場合は、**(Fn)+(F5)**キーで表示装置を切り替えられません。「方法1」の手順で表示装置を切り替えてください。また、複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは[Windowsのログオフ]画面で[ログオフ]を選択して切り替えてください。[ユーザの切り替え]で切り替えた場合は、**(Fn)+(F5)**キーで表示装置を切り替えられません。



参照 ユーザアカウントの切り替え

『基本をマスター 4章 2-② ユーザアカウントを切り替える』

3 取りはずし

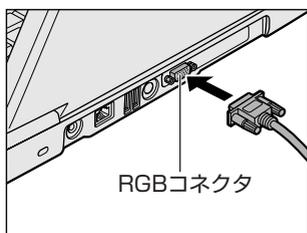
- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるS端子ケーブルを抜く

6 外部ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに表示させることができます。パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む



外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

2 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

省電力ユーティリティで表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。故障ではありません。

【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合を参考にしてください。

参照 ▶ テレビ表示について「本章 5-2 テレビに表示する」

3 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

参照 ▶ ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

7 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1 マイクロホン

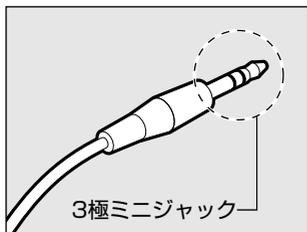
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

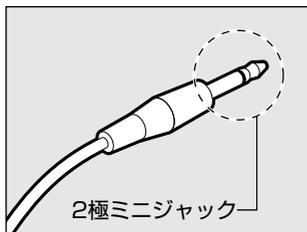
参照 → サウンド機能について「1章 7 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

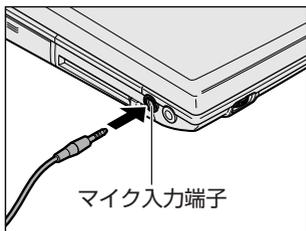
音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

本製品には、音声認識ソフト「LaLaVoice」が用意されています。

参照 → 「LaLaVoice」について《サイバーサポート》

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2) ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm ϕ ステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

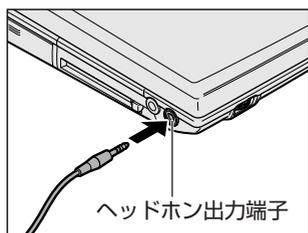
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

8 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでに256MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大1GBまでです。

⚠ 警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはさず際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、警告音（ビーブ音）が鳴ります。スロットAがエラーの場合は「ピー・ピッ」と、スロットBがエラーの場合は「ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。また、2つのスロットがエラーの場合は、A→Bの順に「ピー・ピッ・ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照▶ 「本節 2 取りはずし」

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

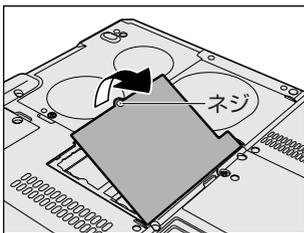
参照▶ 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照▶ バッテリーパックの取りはずし「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

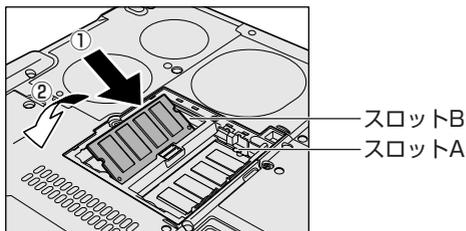
4 増設メモリカバーのネジ1本をゆるめ、カバーをはずす



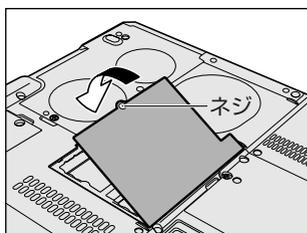
5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。



6 増設メモリカバーをつけて、手順4でゆるめたネジ1本をとめる増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。



7 バッテリパックを取り付ける

参照 ▶ バッテリパックの取り付け [5章 1-③ バッテリパックを交換する]

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 ▶ メモリ容量の確認について [本項 3 メモリ容量の確認]

2 取りはずし

- 1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

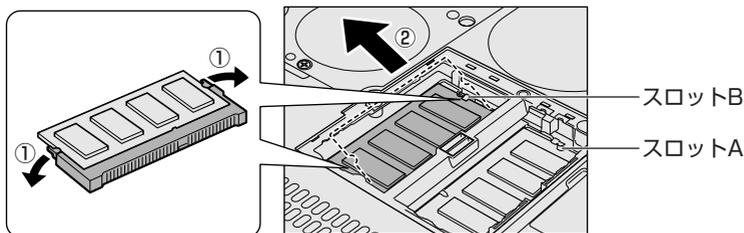
参照▶ 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

- 2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類ははずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照▶ バッテリーパックの取りはずし「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

- 4 増設メモ리카バーのネジ1本をゆるめ、カバーをはずす
- 5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。



- 6 増設メモ리카バーをつけて、手順4でゆるめたネジ1本をとめる
増設メモ리카バーが浮いていないことを確認してください。
- 7 バッテリーパックを取り付ける

参照▶ バッテリーパックの取り付け「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する



「東芝 PC 診断ツール」について

『困ったときは 1 章 3-① パソコンの情報を見る／状態を診断する』

メインメモリはビデオ RAM と共用のため、[基本情報の表示] で表示されるメモリ容量は、実際の搭載メモリより少なく表示されます。

5章

バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたに気をつければ、より長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリーについて 116
 - 2 省電力の設定をする 125
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 131

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーを充電してから使用してください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

危険

- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー（TOSHIBA バッテリーパック：PABAS037）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

警告

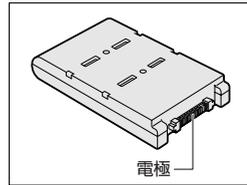
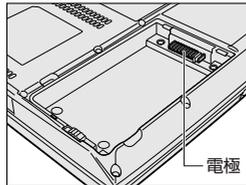
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
バッテリーパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、1度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

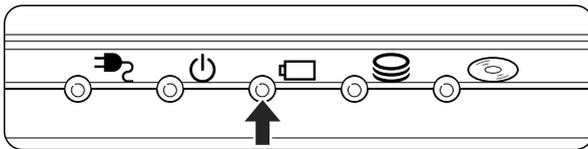


1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。



Battery LED は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・ バッテリーが接続されていない (AC アダプタ使用中) ・ バッテリー異常 (AC アダプタ使用中)

バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。

参照 → バッテリーの充電について「本節 ② バッテリーを充電する」

2 通知領域の [省電力] アイコンで確認する

通知領域の [省電力] アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



参照 → 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery LED や [省電力] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

参照 → 再充電について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
東芝省電力ユーティリティの [アラーム] タブで設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、AC アダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が緑色に点灯)	8 時間以上

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10～30℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN への LED が緑色に点灯して Battery への LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery への LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery への LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN への LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

パソコン本体を長時間で使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【 充電完了までの時間 】

状態	充電時間
電源 ON	約 3.5～9 時間
電源 OFF	約 2.6 時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

【 使用できる時間 】

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

液晶ディスプレイ	14.1 型
JEITA 測定法 1.0	約 2.8 時間

(注) JEITA 測定法 1.0 で測定

【 使っていないときの充電保持時間 】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。充電保持時間は、放置環境などによって異なります。次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

パソコン本体の状態	保持時間
電源 OFF または休止状態	約 25 日
スタンバイ	約 3 日

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

【 バッテリー駆動時の処理速度 】

高度な処理を要するソフトウェア（3D グラフィックス処理など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するために AC アダプタをご使用ください。

2 バッテリーを長持ちさせるには

- ACアダプタをコンセントに接続したままでパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにもACアダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。
その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体からACアダプタをはずし、パソコンの電源を入れる 電源が入らない場合は手順4へ進んでください。

3 5分程度バッテリー駆動を行う

この間、Battery  LEDが点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery  LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN  LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする  「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する  「本章 2 省電力の設定をする」

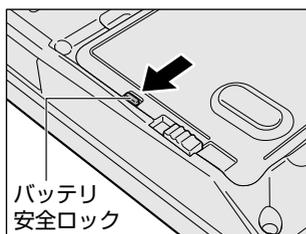
3) バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

バッテリーパックの取り付け／取りはずしの際には、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

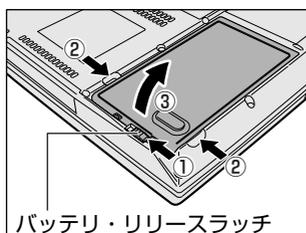
1 取りはずし／取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 4 バッテリー安全ロックを矢印の方向に引く

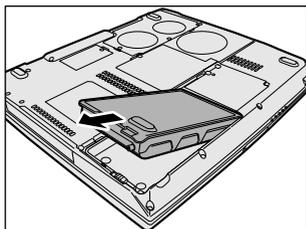


バッテリー・リリースラッチがスライドできるようになります。

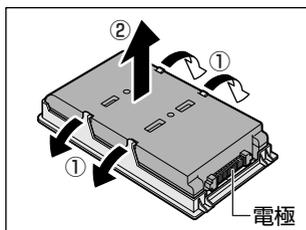
- 5 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、くぼみに指をかけて②、バッテリーカバーごとバッテリーパックを持ち上げる③



- 6 バッテリーカバーごと、バッテリーパックを取り出す

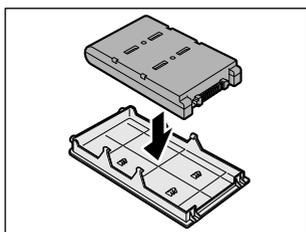


7 バッテリカバーからバッテリーパックを取り出す

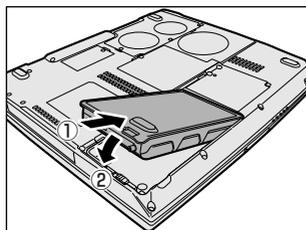


バッテリーカバーのツメを左右に広げ①、
バッテリーパックを取りはずします②。

8 交換するバッテリーパックをバッテリーカバーに取り付ける

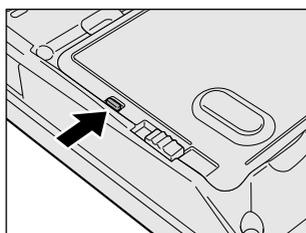


9 バッテリーパックをコネクタに斜めに挿入し①、静かに差し込む②



新しいあるいは充電したバッテリーパックを
注意して、カチッという音がするまで差し
込んでください。

10 バッテリー安全ロックを矢印の方向に押す



バッテリーパックがはずれないように、バッ
テリ安全ロックは必ず行ってください。

2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

1 省電力ユーティリティ

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。

ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 省電力ユーティリティの起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をクリックする
[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。



(表示例)

【電源に接続】【バッテリーを使用中】

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] は AC アダプタ接続/バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、[電源に接続] (AC アダプタを使用するとき) がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中] (バッテリー駆動で使用するとき) がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD 再生	性能と消費電力を両立して DVD の再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 4 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[～のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

【省電力モードの削除】

① 削除する省電力モードをクリックする

② [削除] ボタンをクリックする

[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコン () が通知領域に表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

3 【休止状態】タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。

使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックしてください。



参照 → 休止状態について「本項 4- [動作] タブ」

4 省電力モードの詳細設定

1 [2] の【電源設定】タブで利用したい省電力モードを選択し、【詳細】 ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



【全般】 タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

【省電力】 タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、内部液晶ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

【動作】 タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、保存されていないデータは消失します。
 - ・ 誤った使いかたをしたとき
 - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・ バッテリーが消耗したとき
 - ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
 - ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、保存されていないデータは消失します。

メモ

動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

【何もしない】

何も動作しないように設定されます。

【入力を求める】

〔コンピュータの電源を切る〕画面が表示されます。

終了時の動作を選択してから、パソコンの電源を切ることができます。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（〔東芝省電力〕 → 〔休止状態〕 タブの〔休止状態をサポートする〕がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

〔スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める〕をチェックする（）と、Windows のパスワードを設定している場合には、復帰するときに Windows パスワードの入力が必要になります。

【アラーム】 タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

〔アラーム〕 タブは〔電源設定〕 タブで〔バッテリー使用中〕 に登録された省電力モードを設定する場合のみ表示されます。

5 複数ユーザで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。

▶ 参照 複数のユーザで使用する場合は
『基本をマスター 4 章 2 複数のユーザで使用する』

ヘルプの起動方法

- 1 [東芝省電力ユーティリティ] を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中に次のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
 - ・スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
 - ・スタンバイ中にバッテリーパックをはずすことまた、スタンバイ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒以上押しっぱなし電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailureで立ち上がります）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリの取り付け/取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうと保存されていないデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

【方法 1ー [スタート] メニューから実行する】

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする

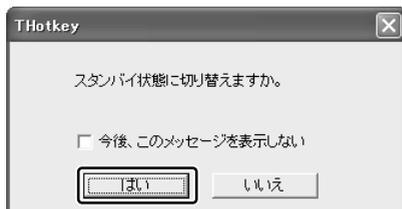


メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

【方法2ー (Fn) + (F3) キーを使う】

- 1 (Fn) + (F3) キーを押す
- 2 [はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック () して [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

- 3 Power  LED がオレンジ点滅しているか確認する

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリー駆動 (AC アダプタを接続しない状態) で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

【方法1ー [スタート] メニューから実行する】

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

休止状態が有効になります。

- 2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 3 (Shift) キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift) キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Power LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

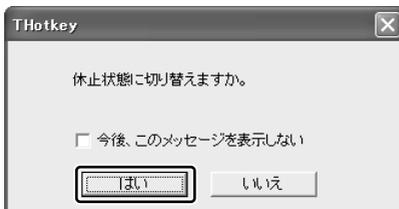
【方法2— (Fn) + (F4) キーを使う】

- 1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [東芝省電力] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

- 2 (Fn) + (F4) キーを押す

- 3 [はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック () して [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

Power LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されています。解除した場合は、「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押す

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、特に変化はありません。
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順 1 の④で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

2 ディ스플레이を閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

1 ディ스플레이を閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 ディ스플레이を閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

6章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 138
 - 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 139

1 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。ここでは [プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン () をクリックする
- 4 [CDまたはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

2 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションDVD-ROMから、再インストールして使用することができます。

参照 → 再インストールについて

『困ったときは 4章 3 アプリケーションを再インストールする』

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、コンピュータ管理者アカウントで行います。

アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。

7章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 142
 - 2 東芝HWセットアップを使う 143
 - 3 パスワードセキュリティ 149
 - 4 BIOSセットアップを使う 153

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」などがあります。

 **参照** 東芝省電力ユーティリティについて「5章 2 省電力の設定をする」

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。
BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。

2 東芝 HW セットアップを使う

東芝 HW セットアップを使い、Windows 上でハードウェアの設定を変更できます。パスワード、パソコンの起動などのさまざまな項目について設定ができます。複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝 HW セットアップ] をクリックする

2 使用方法

■ [全般] タブ ■

BIOS セットアップのバージョンと日付などを表示します。



(表示例)

【 標準設定 】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」の [パスワード] タブ以外のタブの項目がご購入時の設定状態に戻ります。

【 バージョン情報 】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」のバージョン情報を表示します。

■ [パスワード] タブ ■

パソコンの電源を入れたときに入力するユーザパスワードの登録や削除を行います。

参照 → ユーザパスワードについて「本章 3 パスワードセキュリティ」



■ [デバイスの設定] タブ ■

パソコンが起動したときに BIOS セットアップが初期化する装置を指定します。



【 デバイスの設定 】

- 全デバイス設定
システムが起動したときに BIOS が初期化するデバイスを指定します。
- OS による設定（標準値）
システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。通常はこちらに設定します。

■ [ディスプレイ] タブ ■

起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。



【 起動時の表示装置 】

● 自動選択（標準値）

システム起動時に、外部ディスプレイが接続されている場合は、外部ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部ディスプレイが接続されていない場合は、内部液晶ディスプレイに表示します。

● 内部 LCD/ アナログ RGB 同時表示

システム起動時に、外部ディスプレイ（アナログ RGB）が接続されている場合は、内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの両方に表示します。

▶ 参照 ▶ 外部ディスプレイの接続「4章 6 外部ディスプレイを接続する」

Windows の起動後は、前回電源を切る前に接続していた表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回電源を切る前の表示装置が存在しない場合は、内部液晶ディスプレイに表示されます。

■ [OS の起動] タブ ■

パソコンの起動について設定します。



【 OS の起動 】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。

通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

【HDDの起動】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- Built-in HDD → PC Card (標準値)
パソコン本体のハードディスク→PC Cardタイプのハードディスクの順で起動します。
- PC Card → Built-in HDD
PC Cardタイプのハードディスク→パソコン本体のハードディスクの順で起動します。

【ネットワークブートプロトコル】

ネットワークからの起動について設定します。

- PXE (標準値)
PXE プロトコルに設定します。
- RPL
RPL プロトコルに設定します。

■ [キーボード] タブ ■



【キーボードによるスタンバイ復帰】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

■ [USB] タブ ■

USB 対応機器について設定します。



【 USB キーボード/マウス レガシーサポート 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）

レガシーサポートを行います。ドライバなしで USB キーボード、USB マウスが使用可能になります。通常はこちらに設定します。

- 無効にする

レガシーサポートを行いません。

【 USB フロッピーディスク レガシーサポート 】

USB フロッピーディスクのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）

レガシーサポートを行います。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。

- 無効にする

レガシーサポートを行いません。

■ [LAN] タブ ■

LAN 機能について設定します。



【LANのウェイクアップ】

LANのウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LANのウェイクアップ機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

【内蔵LAN】

内蔵LANを使用するかどうかを設定します。

ヘルプの起動方法

- 1 [東芝HWセットアップ] を起動後、画面右上の **?** をクリックする
ポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを登録できます。パスワードには大きく分けて次の2種類があります。

- Windows のログオンパスワード
Windows にログオンするとき
インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーン
セーバを解除するとき

参照 → インスタントセキュリティ機能
[1章 3-③- (Fn)キーを使った特殊機能キー]

- ユーザパスワード
電源を入れたとき、スタンバイ状態、休止状態から復帰するとき

ここでは、「東芝 HW セットアップ」を使ってユーザパスワードを登録する方法について説明します。

キーフロッピーディスク*¹を作成したい場合は、BIOS セットアップで登録してください。

* 1 ユーザパスワードを忘れてしまった場合に使用します。

参照 → キーフロッピーディスクの作成
[本章 4-③-4- キーフロッピーディスクの作成]

メモ

パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

1 ユーザパスワード

1 登録

ユーザパスワードの登録は、「東芝 HW セットアップ」を使用することをおすすめします。キーフロッピーディスクを作成したい場合は、BIOS セットアップで登録してください。

- 1 「東芝 HW セットアップ」を起動する
- 2 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする

3 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードは 10 文字以内で入力できます。パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「***** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部 (半角)	- ! @ < > ; : , . (スペース)
使用できない文字	・ 全角文字 (2バイト文字) ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ (全角/半角)、ひらがな、 日本語入力システムが供給する記号 など ・ 記号の一部 (半角) 【例】 (バーチカルライン)、_ (アンダーバー)、 ¥ (エン) など	

4 [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

5 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

2 削除

1 「東芝HWセットアップ」を起動する

2 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする

3 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。

4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

手順3でパスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

3 変更

ユーザパスワードを削除してから、登録を行ってください。

2 ユーザパスワードの入力

パスワードが登録されている場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 登録したとおりにパスワードを入力し、**(Enter)**キーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LED は、ユーザパスワードを登録したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したユーザパスワードの解除と再登録ができます。また、再登録したユーザパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。

キーフロッピーディスクの作成方法と使いかたについては、「本章 4-③-4 PASSWORD」を確認してください。

キーフロッピーディスクを作成していなかったときにユーザパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。ユーザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

3 スーパーバイザパスワード

「スーパーバイザパスワードユーティリティ」で、Windows 上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更ができます。なお、BIOS セットアップでは設定できません。

メモ

パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

起動方法

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥SVPW32.exe」と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする
詳しくは、「README.HTM」を参照してください。

「README.HTM」の起動方法

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥README.HTM」と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする

4 BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行ってください。BIOS セットアップと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリーが消耗して取り換えた場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了

1 起動

1 (Esc)キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したユーザパスワードを入力し、(Enter)キーを押してください。

参照 ユーザパスワードについて「本章 3 パスワードセキュリティ」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 (F1)キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 (Fn) + (→)キーを押す

本製品では、(Fn) + (→)が(End)キーの機能を持ちます。
画面にメッセージが表示されます。

2 (Y)キーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合には、この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 (Esc)キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y)キーを押す

BIOSセットアップが終了します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	(↑)、(↓)、(←)、(→) 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	(Space)または(BackSpace)
画面を切り替える	(Fn) + (↓)または(Fn) + (↑) 本製品では、(Fn) + (↓)が(PgDn)キー、(Fn) + (↑)が(PgUp)キーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	(Fn) + (←) 本製品では、(Fn) + (←)が(Home)キーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD ●Hard Disk Mode

2) BIOS セットアップの画面

BIOS セットアップには次の2つの画面があります。

① Total = XXXXXKB

② Date (MM-DD-YYYY) = XX-XX-XXXX
Time (HH:MM:SS) = XX:XX:XX

③ Battery Save Mode = Full Power

④ Not Registered

⑤ Boot Priority = HDD → FDD → CD-ROM → LAN
HDD Priority = Built-in HDD → PC Card
Network Boot Protocol = PXE

⑥ Power On Display = Auto-Selected
TV Type = NTSC(JAPAN)

⑦ Power-up Mode = Boot
CPU Cache = Enabled
Level 2 Cache = Enabled
Auto Power On = Disabled
Panel Power On/Off *1 = Disabled

↑↓←→: Select items Space, BkSp : Change values PgDn, PgUp : Change pages
Esc : Exit without saving Home : Set default values End : Save changes and Exit

* 1 Panel Power On/Off は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。

⑧ Device Config. = Setup by OS

⑨ Built-in HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14)
CD-ROM = Secondary IDE(170H/IRQ15)
PC Card *2 = Other(190H/IRQ3)

⑩ PCI BUS = IRQ10, IRQ11

⑪ Controller Mode = Auto-Selected

⑫ Internal Pointing Device = Enabled
Hard Disk Mode = Enhanced IDE(Normal)

⑬ USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled
USB-FDD Legacy Emulation = Enabled

⑭ Built-in LAN = Enabled

↑↓←→: Select items Space, BkSp : Change values PgDn, PgUp : Change pages
Esc : Exit without saving Home : Set default values End : Save changes and Exit

* 2 PC カードタイプのハードディスクからシステムを起動させた場合のみ表示されます。

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

▶ 設定項目の詳細について 「本節 ③ 設定項目」

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY—メモリ容量を表示する

【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME—日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定は、(Space)または(BackSpace)キーで行います。
月と日と年、時と分と秒の切り替えは、(↑)(↓)キーで行います。

【 System Date 】

日付を設定します。

【 System Time 】

時刻を設定します。

3 BATTERY—バッテリーで長く使用するための設定をする

【 Battery Save Mode 】

バッテリーセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)

Processing Speed = High
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.
HDD Auto Off = 30Min.
System Auto Off = Disabled
LCD Brightness = Super-Bright
Cooling Method = Maximum Performance

●User Setting (設定例)

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Battery Optimized

●Low Power

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Bright
Cooling Method = Battery Optimized

(注) System Auto Off (システム自動停止時間) は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。
また LCD Brightness は、AC アダプタを接続している場合の表示内容です。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑)(↓)キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

- **Processing Speed**

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High..... 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

- **CPU Sleep Mode**

CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

- **Display Auto Off (表示自動停止時間)**

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。

画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、(Shift)キーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

- **HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)**

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

- **System Auto Off (システム自動停止時間)**

時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「10Min.」～「60Min.」から選択します。

- LCD Brightness (LCD 輝度)

画面の明るさを選択します。

- ・ Semi-Bright 低輝度に設定する
- ・ Super-Bright 最高輝度に設定する
- ・ Bright 高輝度に設定する

- Cooling Method (CPU 熱制御方式)

CPU の熱を冷ます方式を選択します。

CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。

- ・ Maximum Performance ... CPU 温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させて CPU に風を送り、冷やします。
- ・ Performance CPU が高温になったときに、本体内にあるファンが作動し CPU に風を送り、冷します。
- ・ Battery Optimized CPU が高温になったときに、CPU の処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

4 PASSWORD—ユーザパスワードの登録／削除をする

パスワードの入力エラーが 3 回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度登録を行ってください。

【 Not Registered 】

ユーザパスワードが登録されていないときに表示されます（標準値）。

【 Registered 】

ユーザパスワードが登録されているときに表示されます。

■ ユーザパスワードの登録 ■

ユーザパスワードの登録は「東芝 HW セットアップ」で行うことを推奨します。

 参照 東芝 HW セットアップでのパスワード設定「本章 3-①-1 登録」

■ キーフロッピーディスクの作成 ■

キーフロッピーディスクとは、ユーザパスワードを忘れた場合に使用するフロッピーディスクのことです。BIOS セットアップで作成してください。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DDまたは2HD(1.44MB) フロッピーディスクとフロッピーディスクドライブが必要です。あらかじめ用意してください。

キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよく確認してから、使用してください。

次のように操作して、キーフロッピーディスクを作成します。

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、(Space)または(BackSpace)キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

ユーザパスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、ユーザパスワードを削除してから、登録してください。

参照 ユーザパスワードの削除方法「本項 4- ユーザパスワードの削除」

3 パスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力できます。パスワードに使用できる文字は、「東芝HWセットアップ」の場合と同様です。

参照 東芝HWセットアップからのパスワード登録「本章 3-①-1 登録」

パスワードは1文字ごとに*が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 (Enter)キーを押す

1回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。

6 (Enter)キーを押す

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

7 ユーザパスワードの設定が終了したら、(Fn) + (→)キーを押す

本製品では、(Fn) + (→)が(End)キーの機能を持ちます。
次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.
Insert password service disk if necessary.

8 キーフロッピーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをセットして(Y)キーを押す

作成しないでそのまま終了する場合はフロッピーディスクをセットせずに(Y)キーを押します。

BIOS セットアップの画面に戻るには(N)キーを押します。

手順9はキーフロッピーディスクを作成する場合の手順です。

9 キーフロッピーディスクを作成する

次のメッセージが表示されます。

Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)

① セットされているフロッピーディスクが2HDの場合は①キーを、2DDの場合は②キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。

フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

Remove the password service disk, then press any key.

② フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

参照 キーフロッピーディスクの使いかた

「本項 ユーザパスワードを忘れてしまった場合」

■ ユーザパスワードの削除 ■

「東芝HW セットアップ」からの削除については「本章 3-①-2 削除」を確認してください。

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、
(Space)または(BackSpace)キーを押す
パスワード入力画面が表示されます。

3 登録してあるユーザパスワードを入力する
入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 (Enter)キーを押す

パスワードが削除されます。

入力したパスワードが登録したユーザパスワードと異なる場合は、ピーブ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

■ ユーザパスワードを忘れてしまった場合 ■

キーフロッピーディスクを使用して、登録したユーザパスワードの解除と再登録ができます。また、再登録したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。キーフロッピーディスクを作成していなかったときにユーザパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。ユーザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

1 「Password= 」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフ
ロッピーディスクドライブにセットして、(Enter)キーを押す
パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Set Password Again ? (Y/N)

2 パスワードを再登録する場合は、(Y)キーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本項 4- キーフロッピーディスクの作成」の手順2以降を行ってください。再登録後、システムが再起動します。

パスワードを再登録しない場合は、**(N)**キーを押す

次のメッセージが表示されます。

Remove the Disk,then press any key.

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

■ ユーザパスワードの変更 ■

ユーザパスワードを削除してから、登録を行ってください。

参照 ユーザパスワードの削除と登録について
「本項 ユーザパスワードの削除」、「本章 3-①-1 登録」

5 BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
 - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
 - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
 - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- 指定のドライブ順に起動する

【 HDD Priority 】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

通常は「Built-in HDD → PC Card」に設定してください。

- ・ Built-in HDD → PC Card (標準値)
- ・ PC Card → Built-in HDD

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

- ・ PXE (標準値) PXE プロトコルに設定する
- ・ RPL RPL プロトコルに設定する

6 DISPLAY—表示装置の設定をする

【 Power On Display 】

起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) .. システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは内部液晶ディスプレイだけに表示する
- ・ LCD + AnalogRGB 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する

SVGA モードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD + Analog RGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

Windows の起動後は、前回電源を切る前に接続していた表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回電源を切る前に接続していた表示装置が存在しない場合は、内部液晶ディスプレイに表示されます。

【 TV Type 】

テレビ受信機を選択します。

- ・ NTSC (JAPAN) (標準値) .. 日本仕様の TV 受信機
- ・ PAL ヨーロッパ仕様の TV 受信機
- ・ NTSC (US) 米国仕様の TV 受信機

7 OTHERS—その他の設定をする

【 Power-up Mode (レジューム機能) 】

レジューム機能を設定します。

- ・ Boot (標準値) レジューム機能を無効にする
- ・ Resume レジューム機能を有効にする

【 CPU Cache (キャッシュ) 】

CPU 内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ Enabled (標準値) ... キャッシュメモリを使用する
- ・ Disabled キャッシュメモリを使用しない

【 Level 2 Cache 】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は表示されません。

- ・ Enabled (標準値) ... 2次キャッシュを使用する
- ・ Disabled 2次キャッシュを使用しない

【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

Windows XPを使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

- ・ Disabled (標準値) ... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能とも設定されていない
- ・ Enabled タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能 (Auto Power On) を設定してシステムを起動させた場合、「Password=」と表示されます。パスワードセキュリティで設定したパスワードを入力すると、休止状態からWindowsに復帰します。

 参照 ▶ パスワードセキュリティの設定「本章 3 パスワードセキュリティ」

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は (Space) または (BackSpace) キーで行います。

時と分、月と日の切り替えは (↑) (↓) キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・ Disabled 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・ Disabled 月日を設定しない

● Ring Indicator

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

また、この機能は PC カードタイプのモデムで使用できません。

- ・ Disabled (標準値) ... リングインジケータ機能を使用しない
- ・ Enabled リングインジケータ機能を使用する

● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

- ・ Enabled Wake up on LAN 機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) ... Wake up on LAN 機能を使用しない

【 Panel Power On/Off (パネルスイッチ機能) 】

ディスプレイの開閉による電源の入／切を設定します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。

- ・ Enabled パネルスイッチ機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) ... パネルスイッチ機能を使用しない

8 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- ・ Setup by OS (標準値) ... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
この場合、「PC カード」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- ・ All Devices すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」(標準値) を選択することを推奨します。ただし「PC CARD」内の Controller Mode の設定を「Auto-Selected」以外に設定する場合は「All Devices」に設定してください。

 参照 「PC CARD」について「本項 11 PC CARD」

9 DRIVES I/O—HDD、CD-ROM、PCカードの設定

【 Built-in HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【 CD-ROM 】

ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。内蔵されているドライブがCD-ROMドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

【 PC Card 】

PCカードタイプ (TYPE II) のハードディスク (別売り) からシステムを起動させた場合のみ、表示されます。

システムを起動できるPCカードのタイプ (TYPE II) のハードディスク (別売り) をPCカードスロットに接続したときのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。

10 PCI BUS—PCIバスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 PC CARD—PCカードのモードを選択する

【 Controller Mode 】

PCカードのモードを選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) ... プラグアンドプレイに対応したOSを使用している場合、選択します。
- ・ PCIC Compatible Auto-SelectedやCardBus/16-bitで正常に動作しない16-bit PCカードを使用する場合に選択します。
- ・ CardBus/16-bit Auto-Selectedで正常に動作しないCardBus対応のPCカードを使用する場合に選択します。

12 PERIPHERAL—HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドを使用する／使用しないを設定します。

- ・ Enabled (標準値) 使用する
- ・ Disabled 使用しない

【 Hard Disk Mode 】

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

- ・ Enhanced IDE (Normal) (標準値) 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

13 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード／USB マウスが使用できます。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Legacy Emulation 】

- ・ Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

[USB-FDD Legacy Emulation] が [Enabled] に設定されていても、⑤「BOOT PRIORITY」の [Boot Priority] が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

14 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Enabled (標準値) ... 有効にする
- ・ Disabled 無効にする

付録

本製品のハードウェア仕様や技術基準適合について記しています。

-
- 1 本製品の仕様 170
 - 2 技術基準適合について 179

1 本製品の仕様

1 製品仕様

機種		dynabook A9シリーズ
プロセッサ	CPU	東芝PC診断ツールを参照
メモリ	ROM	512KB (フラッシュROM)、ACPI 1.0b、APM1.2、Plug and Play 1.0a
	RAM	東芝PC診断ツールを参照
	ビデオRAM	最大64MB (システムメモリと共用) *1
表示機能	表示装置	14.1型TFT方式カラー液晶ディスプレイ
	グラフィック表示	横1024 x 縦768 1画面
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 87キー (文字キー、制御キーの合計)
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵
補助記憶装置	2.5型ハードディスクドライブ	1台内蔵
	マルチドライブ	CD-ROM 読み出し：最大24倍速 CD-R 書き込み：最大24倍速 CD-RW (マルチスピード) 書き換え：最大4倍速 High-Speed CD-RW 書き換え：最大10倍速 Ultra Speed CD-RW 書き換え：最大24倍速 DVD-ROM 読み出し：最大8倍速 8cm、12cmのディスク対応、マルチセッション
	3.5型フロッピーディスクドライブ	外付けUSB接続 2DD、または2HDフロッピーディスクを使用 1.2MB (2HD) / 720KB (2DD)、1.44MB
インタフェース	RGB	1個装備
	USB	2個装備 USB2.0準拠 *2
	PCカード	1個装備 PC Card Standard準拠 (TYPE II x 1) CardBus対応
	サウンド	マイク入力 (モノラル) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) ヘッドホン出力 (ステレオ) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) 内蔵スピーカ (ステレオ) 装備
	ビデオ	S-Video出力 1個装備

通信機能	LAN	1個装備 100BASE-TX/10BASE-T
	モデム	1個装備 データ：最大56kbps (V.90対応、ボイスレス、 世界61地域対応) FAX：最大14.4kbps
カレンダー機能		日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ
電源	ACアダプタ	AC100V～240V (50Hz、または60Hz) ACアダプタ
	バッテリー	バッテリーパック Li-Ion 10.8V/3600mAh
最大消費電力		約60W
使用環境条件		温度：5℃～35℃ 湿度：20%～80%Rh
外形寸法 (突起部除く)		331.6 (幅) x 292.9 (奥行) x 33.4/39.8 (高さ) mm
質量		約2.9kg

* 1 システムメモリが256MB以上の場合はビデオRAMの容量は最大64MBですが、システムメモリを128MBまで減らすとビデオRAMの容量は最大32MBになります。

* 2 従来のUSB1.1規格と安全な互換性を持つとともに、USB1.1と比べて40倍(理論値)の高速データ転送の可能なHighSpeedモードをサポートします。
ただし、すべてのUSB1.1 / 2.0対応機器の動作を保証するものではありません。

【東芝PC診断ツール】

基本仕様の一部は「東芝PC診断ツール」で確認することができます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC診断ツール] をクリックする
- 2 [基本情報の表示] ボタンをクリックする

メモ

「東芝PC診断ツール」で表示される内容は、その時点での設定内容です。購入後に設定を変更された場合は、変更後の設定内容が表示されます。ただし [CPU] の項目には、搭載されているCPUの最大クロック数(固定値)が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、アメリカ合衆国、カナダ、日本の規格にのみ準拠しています。

その他の地域で使用する場合は、当該国・地域法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

アメリカ合衆国 : 125V

カナダ : 125V

日本 : 100V

使用できる電圧 (AC) は 100V です。必ず AC100V のコンセントで使用してください。

※取得規格は、アメリカ合衆国 : UL 規格、カナダ : CSA、日本 : 電気用品安全法です。

【ACアダプタの仕様】

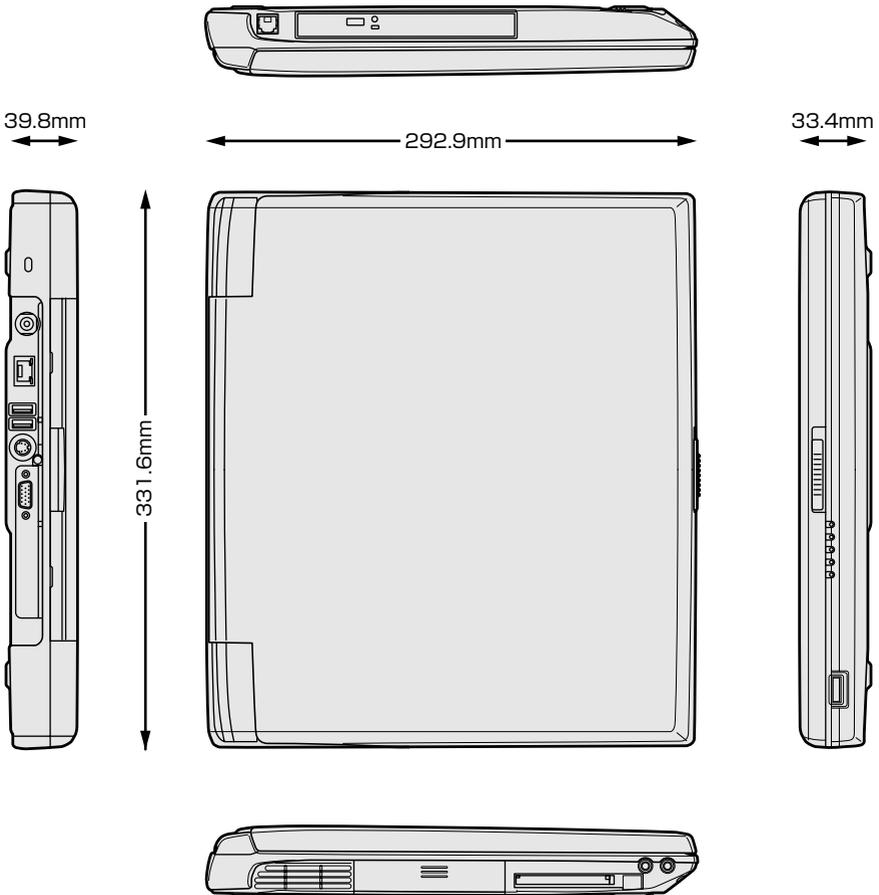
本製品に同梱されている AC アダプタは海外でも使用できます。

入力 : AC100V ~ 240V、90 ~ 264VA、50/60Hz

出力 : DC15V 4A

2 外形寸法図

※数値は突起部を含みません。



3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照▶ 表示可能色数の詳細について「1章 5-①-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)	
0.1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70	
2,3		80×25字		16/256K		
0*,1*		40×25字	8×14	16/256K		
2*,3*		80×25字		16/256K		
0+,1+		40×25字	8(9)×16	16/256K		
2+,3+		80×25字		16/256K		
4,5	VGA	320×200ドット	8×8	4/256K	70	
6	グラフィックス	640×200ドット		2/256K		
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ	60	
7+		80×25字	8(9)×16	モノクロ		
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K	70	
E		640×200ドット		16/256K		
F		640×350ドット	8×14	モノクロ		
10		640×350ドット		16/256K		
11		640×480ドット	8×16	2/256K		60
12		640×480ドット		16/256K		
13		320×200ドット	8×8	256/256K	70	

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640×480ドット	—	256/256K	60/75/85/ 100
—		800×600ドット	—		
—		1024×768ドット	—		
—		1280×1024ドット*1	—		60/75/85
—		1400×1050ドット*1	—		
—		1600×1200ドット*1	—		
—		1920×1440ドット*1	—		
—		640×480ドット	—	64K/64K	60/75/85/ 100
—		800×600ドット	—		
—		1024×768ドット	—		
—		1280×1024ドット*1	—		60/75/85
—		1400×1050ドット*1	—		
—		1600×1200ドット*1	—		
—		1920×1440ドット*1	—		
—		640×480ドット	—	16M/16M	60/75/85/ 100
—		800×600ドット	—		
—		1024×768ドット	—		
—		1280×1024ドット*1	—		60/75/85
—		1400×1050ドット*1	—		
—		1600×1200ドット*1	—		
—		1920×1440ドット*1	—		

* 1：LCDに表示する場合は、実際の画面（1024×768）内に、仮想スクリーン表示します。

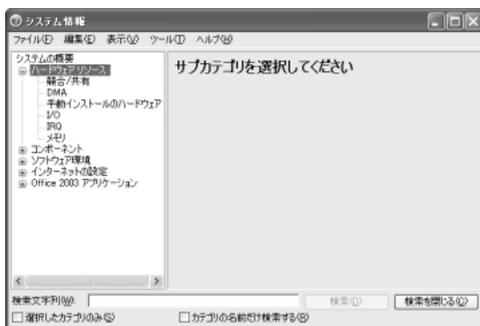
注）一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニターでは使用できません。

4 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/Oポートマップ、IRQ使用リソース、DMA使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



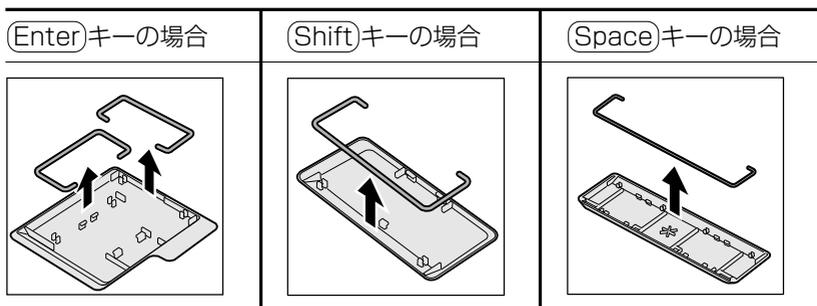
メモリマップ : [メモリ]
I/Oポートマップ : [I/O]
IRQ使用リソース : [IRQ]
DMA使用リソース : [DMA]

5 キートップがはずれてしまったとき

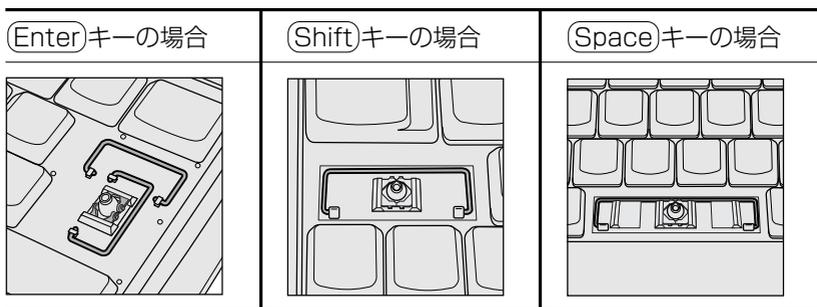
(Enter)キー、(Shift)キー、(Space)キー以外のキートップがはずれた場合は、キートップをキーボードの取り付け部にあわせ、「カチッ」と音がするまで押し込んでください。

(Enter)キー、(Shift)キー、(Space)キーがはずれた場合は、次のように取り付けてください。

1 キートップ裏面から、針金のバネを取りはずす

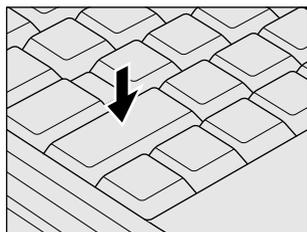


2 キーボードの突起部に、バネを引っかけてセットする



3 キートップの取り付け部にバネをあわせ、「カチッ」と音がするまで押し込む

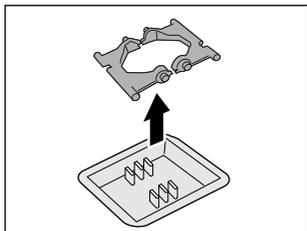
キートップの中央と四隅をしっかり押ししてください。



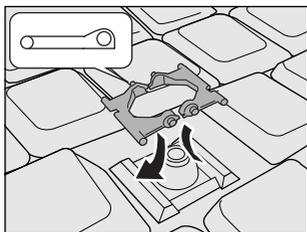
【キートップと一緒にバネもはずれてしまったとき】

キートップがはずれたときに、プラスチックのバネも一緒にはずれてしまった場合は、次のように取り付けてください。

1 キートップの裏面から、プラスチックのバネを取りはずす

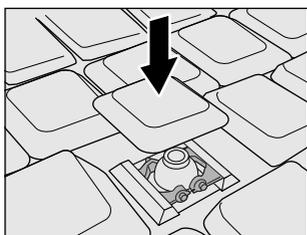


2 バネの平らな面を下にして、キーボードに取り付ける



バネの向きを確認して取り付けてください。

3 キートップをキーボードの取り付け部にあわせ、「カチッ」と音がするまで押し込む



お願い

- キートップを故意にはずさないでください。故障の原因となります。
- 取り付けるときに無理に力を加えると破損の原因となります。取り扱いには十分ご注意ください。

2 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。



『困ったときは 3 章

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい』

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



省電力設定について 「5 章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : dynabook A9 series

Model number : PSA10N

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PSA10N* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and/or the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年10月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

▶ 参照 関連情報は《サイバーサポート》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. It has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1** NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2** The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3** The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353A-L4AINT

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

-
- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
 - Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
 - The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
 - When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
 - The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
 - The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
 - Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
 - It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
 - When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
 - This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

Panasonic CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA750 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION

VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

ATTENTION

RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE.
EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.

VORSICHT

SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.

ADVARSEL

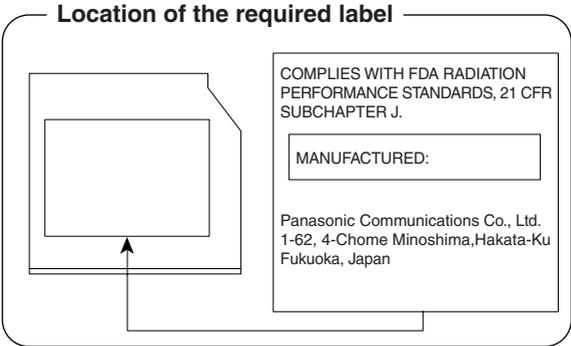
SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.

WARNING

SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

VARO!

NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.



TEAC CD-RW / DVD-ROM ドライブ DW-224E (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

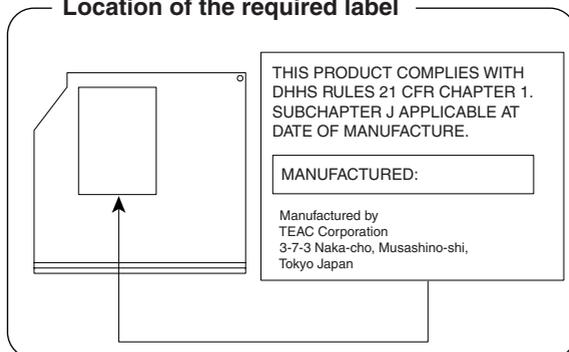
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO!	NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

Location of the required label



総合さくいん

(記号)	.NET Passport	『基本をマスター』 119
	 キー	『応用ガイド』 22
	 キーを使ったショートカットキー	『応用ガイド』 27
(A)	ACアダプタの仕様	『応用ガイド』 19
	Alt キー	『応用ガイド』 22, 23
	Arrow Mode LED	『応用ガイド』 23, 24
(B)	BackSpace キー	『応用ガイド』 23
	BATTERY	『応用ガイド』 156
	Battery LED	『応用ガイド』 21
	BCC	『基本をマスター』 82
	BeatJam	『応用ガイド』 52, 56
	BIOS セットアップ	『応用ガイド』 153
	BOOT PRIORITY	『応用ガイド』 162
(C)	Caps Lock LED	『応用ガイド』 22, 24
	Caps Lock 英数キー	『応用ガイド』 22
	CC	『基本をマスター』 82
	CD-ROM LED	『応用ガイド』 21
	CD のセット	『基本をマスター』 16
	CD の取り扱い	『応用ガイド』 49
	CD の取り出し	『基本をマスター』 17
	ConfigFree	『応用ガイド』 78
	CONFIGURATION	『応用ガイド』 165
	Ctrl キー	『応用ガイド』 22, 23
	CyberSupport for TOSHIBA	『困ったときは』 14
(D)	DC IN LED	『応用ガイド』 21
	Del キー	『応用ガイド』 23
	Disk LED	『応用ガイド』 21
	DISPLAY	『応用ガイド』 163
	DMA 使用リソース	『応用ガイド』 176
	Drag'n Drop CD + DVD	『応用ガイド』 63
	『困ったときは』 37
	DRIVES I/O	『応用ガイド』 166
	DVD-Video を観る	『応用ガイド』 68
	DVD のセット	『基本をマスター』 16

	DVD の取り扱い	『応用ガイド』 49
	DVD の取り出し	『基本をマスター』 17
	dynabook.com (サポート情報)	『困ったときは』 20
(E)	Enter キー	『応用ガイド』 23
	Esc キー	『応用ガイド』 22
(F)	Fn キー	『応用ガイド』 22
	Fn キーを使った特殊機能キー	『応用ガイド』 25
(H)	Home Style+	『基本をマスター』 105
	HTML 形式	『基本をマスター』 79
(I)	I/O ポートマップ	『応用ガイド』 176
	IME パッド	『基本をマスター』 34
	Ins キー	『応用ガイド』 23
	Internet Explorer	『基本をマスター』 58
	Internet Explorer 画面	『基本をマスター』 59
	Internet Explorer の起動	『基本をマスター』 58
	Internet Explorer の終了	『基本をマスター』 60
	InterVideo WinDVD	『応用ガイド』 68
	IRQ 使用リソース	『応用ガイド』 176
(L)	LAN ケーブルの接続	『応用ガイド』 76
	LAN コネクタ	『応用ガイド』 17
	LAN コネクタに関するインジケータ	『応用ガイド』 77
	LAN へ接続する	『応用ガイド』 76
	LEGACY EMULATION	『応用ガイド』 167
(M)	MEMORY	『応用ガイド』 156
	Microsoft IME スタンダードのプロパティ	『基本をマスター』 26
(N)	Norton AntiVirus	『困ったときは』 33
	Norton Internet Security	『困ったときは』 32
	Numeric Mode LED	『応用ガイド』 23, 24
(O)	OTHERS	『応用ガイド』 163
	Outlook 2003	『基本をマスター』 98
	Outlook 2003 画面	『基本をマスター』 99

	Outlook 2003 の起動	『基本をマスター』 98
	Outlook 2003 の終了	『基本をマスター』 104
	Outlook 2003 のバックアップ	『困ったときは』 47
	Outlook Express	『基本をマスター』 74
	Outlook Express 画面	『基本をマスター』 75
	Outlook Express の起動	『基本をマスター』 74
	Outlook Express の終了	『基本をマスター』 76
	Outlook Express のバックアップ	『困ったときは』 44
(P)	PASSWORD	『応用ガイド』 158
	Pause キー	『応用ガイド』 23
	PC CARD	『応用ガイド』 166
	PCI BUS	『応用ガイド』 166
	PCI LAN	『応用ガイド』 168
	PC カードスロット	『応用ガイド』 16
	PC カードの取り付け	『応用ガイド』 97
	PC カードの取りはずし	『応用ガイド』 97
	PC カードを接続する	『応用ガイド』 96
	PERIPHERAL	『応用ガイド』 167
	Power LED	『応用ガイド』 21
	PrtSc キー	『応用ガイド』 23
(R)	RGB コネクタ	『応用ガイド』 17
(S)	S-Video 出力コネクタ	『応用ガイド』 17
	Shift キー	『応用ガイド』 22, 23
	Space キー	『応用ガイド』 22
	SYSTEM DATE/TIME	『応用ガイド』 156
(T)	Tab キー	『応用ガイド』 22
(U)	USB コネクタ	『応用ガイド』 17
	USB 対応機器の取り付け	『応用ガイド』 99
	USB 対応機器の取りはずし	『応用ガイド』 100
	USB 対応機器を接続する	『応用ガイド』 99
(W)	Windows Media Player	『応用ガイド』 52, 59
	Windows のネットワーク設定	『応用ガイド』 77

(ア)	宛先	『基本をマスター』 82
	アドレス	『基本をマスター』 61
	アドレス帳のバックアップ (Outlook Express)	『困ったときは』 45
	アドレス帳を使う (Outlook Express)	『基本をマスター』 94
	アプリケーション DVD-ROM	『困ったときは』 71, 77
	アプリケーションキー	『応用ガイド』 23
	アプリケーションを起動する	『基本をマスター』 36
	アプリケーションを削除する	『応用ガイド』 139
	アプリケーションを終了する	『基本をマスター』 36
	アプリケーションを追加する	『応用ガイド』 138
	アロー状態	『応用ガイド』 24
	アンインストール	『応用ガイド』 139
(イ)	イジェクトホール	『基本をマスター』 18
	イジェクトボタン	『基本をマスター』 18
	インスタントセキュリティ機能	『応用ガイド』 25
	インストール	『応用ガイド』 138
	インターネット接続を終了する	『基本をマスター』 56
	インターネットに接続する	『基本をマスター』 55
	インターネットへの接続について	『基本をマスター』 46
(ウ)	ウィンドウ	『基本をマスター』 19
	ウィンドウズキー	『応用ガイド』 22
	ウィンドウの大きさを変える	『基本をマスター』 20
	ウィンドウを移動する	『基本をマスター』 21
	ウィンドウを閉じる	『基本をマスター』 21
	ウィンドウを開く	『基本をマスター』 20
(エ)	英数字を入力する	『基本をマスター』 30
	液晶ディスプレイの取り扱い	『応用ガイド』 42
(オ)	オーバーレイキー	『応用ガイド』 23
	大文字ロック状態	『応用ガイド』 24
	[お気に入り] からホームページを表示する	『基本をマスター』 65
	[お気に入り] に登録する	『基本をマスター』 63
	[お気に入り] のバックアップ	『困ったときは』 43
	[お気に入り] を整理する	『基本をマスター』 66
	オプションの設定 (Outlook 2003)	『基本をマスター』 101

	オプションの設定 (Outlook Express)	『基本をマスター』 77
	オリジナル音楽CDを作る	『応用ガイド』 63
	音楽CDを聴く	『応用ガイド』 52
	音楽ファイルを聴く	『応用ガイド』 56
(カ)	海外でインターネットに接続する	『応用ガイド』 83
	外形寸法図	『応用ガイド』 173
	回線切換器	『応用ガイド』 83
	解像度を変更する	『応用ガイド』 36
	書き込み可能状態	『応用ガイド』 92
	書き込み禁止状態	『応用ガイド』 92
	カタカナ／ひらがなキー	『応用ガイド』 23
	カタカナを入力する	『基本をマスター』 28
	型番	『応用ガイド』 18
	カテゴリ	『応用ガイド』 76
	かな入力	『基本をマスター』 25
	漢字を入力する	『基本をマスター』 27
(キ)	キーシフトインジケータ	『応用ガイド』 24
	キートップがはずれたとき	『応用ガイド』 177
	キーフロッピーディスクの作成	『応用ガイド』 159
	キーボード	『応用ガイド』 16
	キーボードの取り扱い	『応用ガイド』 28
	記号を入力する	『基本をマスター』 29
	休止状態	『応用ガイド』 133
(ク)	クリック (タッチパッド)	『基本をマスター』 9
	『応用ガイド』 30
	クリック (マウス)	『基本をマスター』 13
	くるくる壁紙チェンジャー	『応用ガイド』 36
(コ)	ごみ箱	『基本をマスター』 42
	コントロールパネル	『困ったときは』 22
(サ)	再インストール	『困ったときは』 77
	最小化	『基本をマスター』 22
	[最小化] ボタン	『基本をマスター』 19
	再起動	『困ったときは』 25

	再セットアップ	『困ったときは』 70
	最大化	『基本をマスター』 22
	[最大化] ボタン	『基本をマスター』 19
	サイバーサポート	『困ったときは』 14
	サウンド機能	『応用ガイド』 44
(シ)	システムインジケータ	『応用ガイド』 16, 21
	システム環境の変更	『応用ガイド』 142
	知っておきたいマナー	『基本をマスター』 106
	充電完了までの時間	『応用ガイド』 119
	受信したメールを見る (Outlook 2003)	『基本をマスター』 103
	受信したメールを見る (Outlook Express)	『基本をマスター』 87
	使用できる CD	『応用ガイド』 47
	使用できる DVD	『応用ガイド』 48
	使用できるフロッピーディスク	『応用ガイド』 91
	使用できるメディアと対応するアプリケーション	『応用ガイド』 46
	省電力モード	『応用ガイド』 126
	省電力ユーティリティ	『応用ガイド』 125
	署名を入れる (Outlook Express)	『基本をマスター』 83
(ス)	数字ロック状態	『応用ガイド』 24
	スクロール (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	スクロール (マウス)	『基本をマスター』 14
	スクロールバー	『基本をマスター』 19
	スタンバイ	『応用ガイド』 132
	スピーカ	『応用ガイド』 16
(セ)	静電気について	『応用ガイド』 111
	製品仕様	『応用ガイド』 170
	セキュリティロック	『応用ガイド』 50
	セキュリティロック・スロット	『応用ガイド』 17
(ソ)	操作メニュー	『基本をマスター』 19
	増設メモリスロット	『応用ガイド』 18
	増設メモリの取り付け	『応用ガイド』 111
	増設メモリの取りはずし	『応用ガイド』 113

(ナ)	内蔵モデム	『応用ガイド』 83
	内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	『応用ガイド』 83
	ナチュラルインプット	『基本をマスター』 25
(ニ)	日本語入力システム MS-IME を起動する	『基本をマスター』 25
	入力に関する制御キー	『基本をマスター』 32
(ハ)	ハードウェアリソース	『応用ガイド』 176
	ハードディスクドライブ	『応用ガイド』 43
	パスワードの削除	『基本をマスター』 112
	『応用ガイド』 150
	パスワードの設定	『基本をマスター』 110
	パスワードの登録	『応用ガイド』 149
	パスワードの入力	『基本をマスター』 111
	パスワードの変更	『基本をマスター』 112
	『応用ガイド』 151
	パスワードを忘れたときのために	『基本をマスター』 113
	パソコン本体の取り扱い	『応用ガイド』 20
	パソコンの設定	『基本をマスター』 53
	バックアップ	『困ったときは』 36
	バックライト用蛍光管	『応用ガイド』 42
	バッテリー	『応用ガイド』 116
	バッテリー安全ロック	『応用ガイド』 18
	バッテリー駆動での使用時間	『応用ガイド』 121
	バッテリー充電量を確認する	『応用ガイド』 117
	バッテリーの充電方法	『応用ガイド』 120
	バッテリーの充電保持時間	『応用ガイド』 121
	バッテリーパック	『応用ガイド』 18
	バッテリーパックの交換方法	『応用ガイド』 123
	バッテリー・リリースラッチ	『応用ガイド』 18
	バッテリーを長持ちさせるには	『応用ガイド』 122
	パネルスイッチ機能	『応用ガイド』 136
	半/全キー	『応用ガイド』 22
(ヒ)	ピクセル	『応用ガイド』 35
	左ボタン (タッチパッド)	『基本をマスター』 8
	『応用ガイド』 16
	左ボタン (マウス)	『基本をマスター』 11

	ビデオモード	『応用ガイド』 174
	表示可能色数	『応用ガイド』 35
	ひらがなを入力する	『基本をマスター』 27
(フ)	ファイル	『基本をマスター』 37
	ファイルの圧縮方法	『基本をマスター』 107
	ファイルの解凍方法	『基本をマスター』 107
	ファイルのコピー	『基本をマスター』 40
	ファイルの作成	『基本をマスター』 38
	ファイルの名前を変更する	『基本をマスター』 40
	ファイルを削除する	『基本をマスター』 42
	ファンクションキー	『応用ガイド』 22
	フォルダ	『基本をマスター』 37
	フォルダのコピー	『基本をマスター』 40
	フォルダの作成	『基本をマスター』 38
	フォルダの名前を変更する	『基本をマスター』 40
	フォルダを削除する	『基本をマスター』 42
	複数のユーザで使用する	『基本をマスター』 114
	プラグアンドプレイ	『応用ガイド』 89
	ブロードバンドについて	『基本をマスター』 47
	フロッピーディスクドライブの手入れ	『応用ガイド』 95
	フロッピーディスクの取り扱い	『応用ガイド』 95
	プロバイダと契約する	『基本をマスター』 51
	分岐アダプタ	『応用ガイド』 83
	文書を保存する	『基本をマスター』 30
(ヘ)	ヘッドホン	『応用ガイド』 108
	ヘッドホン出力端子	『応用ガイド』 16, 109
	ヘルプの起動 (日本語入力システム MS-IME)	『基本をマスター』 35
	ヘルプの起動方法 (Outlook 2003)	『基本をマスター』 105
	変換キー	『応用ガイド』 23
	変換し直す	『基本をマスター』 34
	変換の区切りを変える	『基本をマスター』 33
(ホ)	ホームページの画像を壁紙に設定する	『基本をマスター』 69
	ホームページの画像を保存する	『基本をマスター』 69
	ホームページの検索	『基本をマスター』 62
	ホームページの表示	『基本をマスター』 61

	ホームページを保存する	『基本をマスター』 68
	ホイール (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	ホイール (マウス)	『基本をマスター』 11
	ポインタ	『基本をマスター』 8
	ポインタを動かす (タッチパッド)	『基本をマスター』 9
	ポインタを動かす (マウス)	『基本をマスター』 13
	ボリュームコントロール	『応用ガイド』 44
	ボリュームダイヤル	『応用ガイド』 16, 44
(マ)	マイク入力端子	『応用ガイド』 16, 108
	マイクホン	『応用ガイド』 107
	マウス	『基本をマスター』 11
(ミ)	右クリック (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	右クリック (マウス)	『基本をマスター』 13
	右ボタン (タッチパッド)	『基本をマスター』 8
	『応用ガイド』 16
	右ボタン (マウス)	『基本をマスター』 11
	未使用時の充電保持時間	『応用ガイド』 121
(ム)	無変換キー	『応用ガイド』 22
(メ)	メールにファイルを添付する (Outlook Express) ..	『基本をマスター』 84
	メールを検索する (Outlook Express)	『基本をマスター』 97
	メールを削除する (Outlook Express)	『基本をマスター』 92
	メールを作成する (Outlook 2003)	『基本をマスター』 102
	メールを作成する (Outlook Express)	『基本をマスター』 81
	メールを受信する (Outlook 2003)	『基本をマスター』 103
	メールを受信する (Outlook Express)	『基本をマスター』 87
	メールを整理する (Outlook Express)	『基本をマスター』 93
	メールを送信する (Outlook 2003)	『基本をマスター』 103
	メールを送信する (Outlook Express)	『基本をマスター』 85
	メールを転送する (Outlook 2003)	『基本をマスター』 104
	メールを転送する (Outlook Express)	『基本をマスター』 91
	メールを返信する (Outlook 2003)	『基本をマスター』 104
	メールを返信する (Outlook Express)	『基本をマスター』 90
	メニューバー	『基本をマスター』 19
	メモ帳	『基本をマスター』 24

	メモリマップ	『応用ガイド』 176
	メモリ容量の確認	『応用ガイド』 114
	メモリを増設する	『応用ガイド』 110
(モ)	文字キー	『基本をマスター』 23
	文字化け	『基本をマスター』 79
	文字を削除する	『基本をマスター』 33
	モジュージャック	『応用ガイド』 17
	[元に戻す (縮小)] ボタン	『基本をマスター』 19
(ヤ)	矢印キー	『応用ガイド』 23
(ユ)	ユーザアカウントの設定を変更する	『基本をマスター』 117
	ユーザアカウントを切り替える	『基本をマスター』 115
	ユーザアカウントを追加する	『基本をマスター』 114
	ユーザパスワードを忘れてしまった場合	『応用ガイド』 161
(ヨ)	読みかたがわからない文字を入力する	『基本をマスター』 34
(ラ)	ライトプロテクトタブ	『応用ガイド』 92
(リ)	リカバリ DVD-ROM	『困ったときは』 71
	リリース情報	『応用ガイド』 9
	履歴	『基本をマスター』 71
(ロ)	ローマ字入力	『基本をマスター』 25
	ローマ字入力一覧表	『基本をマスター』 122
	録音レベルの調整	『応用ガイド』 45

